



# インターフェイスおよびハードウェア コマンド

---

- debug ilpower (2 ページ)
- debug interface (3 ページ)
- debug lldp packets (4 ページ)
- debug platform poe (5 ページ)
- duplex (6 ページ)
- enable (インターフェイス コンフィギュレーション) (7 ページ)
- errdisable detect cause (8 ページ)
- errdisable recovery cause (11 ページ)
- errdisable recovery interval (13 ページ)
- interface (14 ページ)
- interface range (16 ページ)
- ip mtu (17 ページ)
- ipv6 mtu (18 ページ)
- lldp (インターフェイス コンフィギュレーション) (20 ページ)
- mode (電源スタックの設定) (21 ページ)
- network-policy (23 ページ)
- network-policy profile (グローバル コンフィギュレーション) (24 ページ)
- power-priority (25 ページ)
- power supply (26 ページ)
- show beacon all (27 ページ)
- show env (28 ページ)
- show errdisable detect (30 ページ)
- show errdisable recovery (31 ページ)
- show ip interface (31 ページ)
- show interfaces (37 ページ)
- show interfaces counters (42 ページ)
- show interfaces switchport (44 ページ)

- [show interfaces transceiver](#) (48 ページ)
- [show inventory](#) (50 ページ)
- [show memory platform](#) (56 ページ)
- [show module](#) (58 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages ilpower](#) (58 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages ilpower-ha](#) (60 ページ)
- [show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe](#) (60 ページ)
- [show network-policy profile](#) (61 ページ)
- [show platform hardware capacity](#) (62 ページ)
- [show platform hardware fed switch forward](#) (73 ページ)
- [show platform resources](#) (76 ページ)
- [show platform software ilpower](#) (76 ページ)
- [show platform software process list](#) (78 ページ)
- [show platform software process slot switch](#) (81 ページ)
- [show platform software status control-processor](#) (83 ページ)
- [show processes cpu platform monitor](#) (86 ページ)
- [show processes memory platform](#) (87 ページ)
- [show system mtu](#) (90 ページ)
- [show tech-support](#) (90 ページ)
- [speed](#) (92 ページ)
- [switchport block](#) (94 ページ)
- [system mtu](#) (95 ページ)
- [voice-signaling vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (95 ページ)
- [voice vlan](#) (ネットワークポリシー コンフィギュレーション) (97 ページ)

## debug ilpower

電源コントローラおよびPower over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug ilpower** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ilpower {cdp | event | ha | ipc | police | port | powerman | registries | scp | sense | upoe}
no debug ilpower {cdp | event | ha | ipc | police | port | powerman | registries | scp | sense | upoe}
```

### 構文の説明

<b>cdp</b>	PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ha</b>	PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。
<b>ipc</b>	PoE Inter-Process Communication (IPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>police</b>	PoE police デバッグ メッセージを表示します。

<b>port</b>	PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>powerman</b>	PoE 電力管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	PoE レジストリ デバッグ メッセージを表示します。
<b>scp</b>	PoE SCP デバッグ メッセージを表示します。
<b>sense</b>	PoE sense デバッグ メッセージを表示します。
<b>upoe</b>	Cisco UPOE デバッグ メッセージを表示します。

コマンドデフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、PoE 対応スイッチだけでサポートされています。

あるスイッチスタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、スタックマスターでのみイネーブルになります。スタックメンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用してスタックマスターからセッションを開始してください。次に、スタックメンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタックマスタースイッチ上で **remote command stack-member-number LINE EXEC** コマンドを使用します。

## debug interface

インターフェイス関連アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug interface** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {interface-id|counters {exceptions|protocol memory} | null interface-number | port-channel port-channel-number | states | vlan vlan-id}
no debug interface {interface-id|counters {exceptions|protocol memory} | null interface-number | port-channel port-channel-number | states | vlan vlan-id}
```

構文の説明	interface-id
	物理インターフェイスの ID です。タイプ スイッチ番号/モジュール番号/ポート（例：gigabitethernet 1/0/2）によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。

<b>null</b> <i>interface-number</i>	スル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。インターフェイス番号は常に <b>0</b> です。
<b>port-channel</b> <i>port-channel-number</i>	指定された EtherChannel ポートチャネル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>port-channel-number</i> は 1 ~ 48 です。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	指定した VLAN のデバッグ メッセージを表示します。指定できる VLAN 範囲は 1 ~ 4094 です。
<b>counters</b>	カウンタ デバッグ情報を表示します。
<b>exceptions</b>	インターフェイス パケット および データ レート 統計情報の計算中に回復可能な例外条件が発生したときにデバッグ メッセージを表示します。
<b>protocol memory</b>	プロトコルカウンタのメモリ操作のデバッグ メッセージを表示します。
<b>states</b>	インターフェイスの状態が移行するときに中間のデバッグ メッセージを表示します。

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug interface** コマンドは **no debug interface** コマンドと同じです。

あるスイッチスタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、スタックマスターでのみイネーブルになります。スタックメンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用してスタックマスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタックマスタースイッチ上で **remote command stack-member-number LINE EXEC** コマンドを使用します。

## debug lldp packets

Link Layer Discovery Protocol (LLDP) パケットのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug lldp packets** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug lldp packets**  
**no debug lldp packets**

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンド デフォルト	デバッグはディセーブルです。	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**undebg lldp packets** コマンドは **no debug lldp packets** コマンドと同じです。

あるスイッチスタック上でデバッグをイネーブルにした場合は、でのみイネーブルになります。スタックメンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number EXEC** コマンドを使用してからセッションを開始してください。

## debug platform poe

Power over Ethernet (PoE) ポートのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform poe** コマンドを使用します。デバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform poe** [**{error | info}**] [**switch switch-number**]  
**no debug platform poe** [**{error | info}**] [**switch switch-number**]

構文の説明	<b>error</b>	(任意) PoE 関連エラーのデバッグ メッセージを表示します。
	<b>info</b>	(任意) PoE 関連情報のデバッグ メッセージを表示します。
	<b>switch switch-number</b>	(任意) スタックメンバを指定します。このキーワードは、スタック対応スイッチでのみサポートされています。
コマンド デフォルト	デバッグはディセーブルです。	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **undebbug platform poe** コマンドは **no debug platform poe** コマンドと同じです。

## duplex

ポートのデュプレックスモードで動作するように指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **duplex** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**duplex** {**auto** | **full** | **half**}  
**no duplex** {**auto** | **full** | **half**}

### 構文の説明

**auto** 自動によるデュプレックス設定をイネーブルにします。接続されたデバイスモードにより、ポートが自動的に全二重モードか半二重モードで動作すべきかを判断します。

**full** 全二重モードをイネーブルにします。

**half** 半二重モードをイネーブルにします (10 または 100 Mbps で動作するインターフェイスに限る)。1000 または 10,000 Mbps で動作するインターフェイスに対して半二重モードを設定できません。

### コマンド デフォルト

ギガビット イーサネット ポートに対するデフォルトは **auto** です。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

ギガビットイーサネットポートでは、接続装置がデュプレックスパラメータの自動ネゴシエーションを行わない場合にポートを **auto** に設定すると、**full** を指定するのと同じ効果があります。

二重オプションは、1000BASE-x または 10GBASE-x (-x は -BX、-CWDM、-LX、-SX、または -ZX) SFP モジュールではサポートされていません。



(注) デュプレックスモードが **auto** で接続されている装置が半二重で動作している場合、半二重モードはギガビットイーサネットインターフェイスでサポートされます。ただし、これらのインターフェイスを半二重モードで動作するように設定することはできません。

特定のポートを全二重または半二重のいずれかに設定できます。このコマンドの適用可能性は、スイッチが接続されているデバイスによって異なります。

両方のラインの終端が自動ネゴシエーションをサポートしている場合、デフォルトの自動ネゴシエーションを使用することを強く推奨します。片方のインターフェイスが自動ネゴシエーションをサポートし、もう片方がサポートしていない場合、両方のインターフェイス上でデュプレックスと速度を設定し、サポートされている側で **auto** の設定を使用してください。

速度が **auto** に設定されている場合、スイッチはもう一方のリンクの終端にあるデバイスと速度設定についてネゴシエートし、速度をネゴシエートされた値に強制的に設定します。デュプレックス設定はリンクの両端での設定が引き継がれますが、これにより、デュプレックス設定に矛盾が生じることがあります。

デュプレックス設定を行うことができるのは、速度が **auto** に設定されている場合です。



**注意**

インターフェイス速度およびデュプレックスモードの設定を変更すると、再設定中にインターフェイスがシャットダウンし、再びイネーブルになる場合があります。

設定を確認するには、**show interfaces** 特権 EXEC コマンドを入力します。

**例**

次の例では、インターフェイスを全二重動作に設定する方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1
Device(config-if)# duplex full
```

## enable (インターフェイス コンフィギュレーション)

100 GigabitEthernet インターフェイスを有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **enable** コマンドを使用します。100 GigabitEthernet インターフェイスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

**コマンド デフォルト**

物理ポート番号 25 ~ 32 では、100 GigabitEthernet インターフェイスは有効になっています。  
物理ポート番号 1 ~ 24 では、100 GigabitEthernet インターフェイスは無効になっています。

**コマンド モード**

インターフェイス コンフィギュレーション

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが Cisco Catalyst 9500 シリーズスイッチ - ハイパフォーマンスで導入されました。

**使用上のガイドライン** 100 GigabitEthernet インターフェイスを有効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **enable** コマンドを使用します。

100 GigabitEthernet インターフェイスを無効にするには、このコマンドの **no** バージョンを使用します。

インターフェイスの現在の状態を表示するには、特権 EXEC モードで **show interface interface-id** コマンドを入力します。

次に、インターフェイス HundredGigabitEthernet 1/0/40 を有効にする例を示します。

インターフェイス HundredGigabitEthernet 1/0/40 を有効にすると、対応する 40 GigabitEthernet インターフェイスの FortyGigabitEthernet 1/0/15 と FortyGigabitEthernet 1/0/16 は非アクティブになります。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# interface hundredgigabitethernet 1/0/40
Device(config-if)# enable
```

次に、インターフェイス 40 GigabitEthernet 1/0/16 を使用するためにインターフェイス HundredGigabitEthernet 1/0/40 を無効にする例を示します。

HundredGigabitEthernet インターフェイスを無効にすると、対応する 40 GigabitEthernet インターフェイスの FortyGigabitEthernet1/0/15 と FortyGigabitEthernet1/0/16 の両方がアクティブになります。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# interface hundredgigabitethernet 1/0/40
Device(config-if)# no enable
Device(config-if)# exit
```

## errdisable detect cause

特定の原因またはすべての原因に対して errdisable 検出をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **errdisable detect cause** コマンドを使用します。errdisable 検出機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable detect cause {all|arp-inspection|bpduguard shutdown vlan|dhcp-rate-limit|dtp-flap|gbic-invalid|inline-power|link-flap|loopback|pagp-flap|pppoe-ia-rate-limit|psp shutdown vlan|security-violation shutdown vlan|sfp-config-mismatch}
```

```
no errdisable detect cause {all|arp-inspection|bpduguard shutdown vlan|dhcp-rate-limit|dtp-flap|gbic-invalid|inline-power|link-flap|loopback|pagp-flap|pppoe-ia-rate-limit|psp shutdown vlan|security-violation shutdown vlan|sfp-config-mismatch}
```

### 構文の説明

<b>all</b>	すべての errdisable の原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。
------------	--



<b>arp-inspection</b>	ダイナミックアドレス解決プロトコル (ARP) インспекションのエラー検出をイネーブルにします。
<b>bpduguard shutdown vlan</b>	BPDU ガードで VLAN ごとに errdisable をイネーブルにします。
<b>dhcp-rate-limit</b>	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) スヌーピング用のエラー検出をイネーブルにします。
<b>dtp-flap</b>	ダイナミック トランッキング プロトコル (DTP) フラップのエラー検出をイネーブルにします。
<b>gbic-invalid</b>	無効なギガビットインターフェイスコンバータ (GBIC) モジュール用のエラー検出をイネーブルにします。  (注) このエラーは、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを意味します。
<b>inline-power</b>	Power over Ethernet (PoE) の errdisable 原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。  (注) このキーワードは、PoE ポートを備えたスイッチでのみサポートされています。
<b>link-flap</b>	リンクステートのフラップに対して、エラー検出をイネーブルにします。
<b>loopback</b>	検出されたループバックに対して、エラー検出をイネーブルにします。
<b>pagp-flap</b>	ポート集約プロトコル (PAgP) フラップの errdisable 原因のエラー検出をイネーブルにします。
<b>pppoe-ia-rate-limit</b>	PPPoE 中継エージェントのレート制限 errdisable 原因に対して、エラー検出をイネーブルにします。
<b>psp shutdown vlan</b>	プロトコルストームプロテクション (PSP) のエラー検出をイネーブルにします。
<b>security-violation shutdown vlan</b>	音声認識 IEEE 802.1X セキュリティをイネーブルにします。
<b>sfp-config-mismatch</b>	SFP 設定の不一致によるエラー検出をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

検出はすべての原因に対してイネーブルです。VLAN ごとの errdisable を除くすべての原因について、ポート全体をシャットダウンするように設定されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 原因 (link-flap、dhcp-rate-limit など) は、errdisable ステートが発生した理由です。原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステートとなり、リンクダウンステートに類似した動作ステートとなります。

ポートが errdisable になっているときは事実上シャットダウンし、トラフィックはポートで送受信されません。ブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) ガード、音声認識 802.1X セキュリティ、およびポートセキュリティ機能の場合は、違反の発生時にポート全体をシャットダウンする代わりに、ポートで問題となっている VLAN のみをシャットダウンするようにスイッチを設定できます。

**errdisable recovery** グローバルコンフィギュレーションコマンドを入力して、原因の回復メカニズムを設定する場合は、すべての原因がタイムアウトになった時点で、インターフェイスは errdisable ステートから抜け出して、処理を再試行できるようになります。回復メカニズムを設定しない場合は、まず **shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、インターフェイスを手動で errdisable ステートから回復させる必要があります。

プロトコルストームプロテクションでは、最大 2 個の仮想ポートについて過剰なパケットがドロップされます。 **psp** キーワードを使用した仮想ポートの errdisable は、EtherChannel および Flexlink インターフェイスではサポートされません。

設定を確認するには、**show errdisable detect** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、リンクフラップ errdisable 原因に対して errdisable 検出をイネーブルにする方法を示します。

```
デバイス(config)# errdisable detect cause link-flap
```

次のコマンドでは、VLAN ごとの errdisable ステートで BPDU ガードをグローバルに設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# errdisable detect cause bpduguard shutdown vlan
```

次のコマンドでは、VLAN ごとの errdisable ステートで音声認識 802.1X セキュリティをグローバルに設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# errdisable detect cause security-violation shutdown vlan
```

設定を確認するには、**show errdisable detect** 特権 EXEC コマンドを入力します。

## errdisable recovery cause

特定の原因から回復するように errdisable メカニズムをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **errdisable recovery cause** コマンドを使用します。デフォルト 設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable recovery cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | inline-power | link-flap | loopback | mac-limit | pagp-flap | port-mode-failure | pppoe-ia-rate-limit | psecure-violation | psp | security-violation | sfp-config-mismatch | storm-control | udd}
```

```
no errdisable recovery cause {all | arp-inspection | bpduguard | channel-misconfig | dhcp-rate-limit | dtp-flap | gbic-invalid | inline-power | link-flap | loopback | mac-limit | pagp-flap | port-mode-failure | pppoe-ia-rate-limit | psecure-violation | psp | security-violation | sfp-config-mismatch | storm-control | udd}
```

### 構文の説明

<b>all</b>	すべての errdisable の原因から回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>arp-inspection</b>	アドレス解決プロトコル (ARP) 検査による errdisable ステートから回復するためのタイマーをイネーブルにします。
<b>bpduguard</b>	ブリッジプロトコルデータ ユニット (BPDU) ガード errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>channel-misconfig</b>	EtherChannel 設定の矛盾による errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>dhcp-rate-limit</b>	DHCP スヌーピング errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>dtp-flap</b>	ダイナミック トランッキングプロトコル (DTP) フラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>gbic-invalid</b>	ギガビットインターフェイスコンバータ (GBIC) モジュールを無効な errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。  (注) このエラーは無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) の errdisable ステートを意味します。
<b>inline-power</b>	Power over Ethernet (PoE) の errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。  このキーワードは、PoE ポートを備えたスイッチでのみサポートされています。

<b>link-flap</b>	リンクフラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>loopback</b>	ループバック errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>mac-limit</b>	MAC 制限 errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>pagp-flap</b>	ポート集約プロトコル (PAgP) フラップ errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>port-mode-failure</b>	ポートモードの変更失敗の errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>pppoe-ia-rate-limit</b>	PPPoE IA レート制限 errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>psecure-violation</b>	ポートセキュリティ違反ディセーブルステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>psp</b>	プロトコルストームプロテクション (PSP) の errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>security-violation</b>	IEEE 802.1X 違反ディセーブルステートから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>sfp-config-mismatch</b>	SFP 設定の不一致によるエラー検出をイネーブルにします。
<b>storm-control</b>	ストーム制御エラーから回復するタイマーをイネーブルにします。
<b>udld</b>	単方向リンク検出 (UDLD) errdisable ステートから回復するタイマーをイネーブルにします。

**コマンド デフォルト** すべての原因に対して回復はディセーブルです。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 原因 (all、BDPU ガードなど) は、errdisable ステートが発生した理由として定義されます。原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステート (リンクダウンステートに類似した動作ステート) となります。

ポートが **errdisable** になっているときは事実上シャットダウンし、トラフィックはポートで送受信されません。BPDUガード機能およびポートセキュリティ機能の場合は、違反の発生時にポート全体をシャットダウンする代わりに、ポートで問題となっている VLAN だけをシャットダウンするようにスイッチを設定できます。

原因の回復をイネーブルにしない場合、インターフェイスは、**shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドが入力されるまで **errdisable** ステートのままです。原因の回復をイネーブルにした場合、インターフェイスは **errdisable** ステートから回復し、すべての原因がタイムアウトになったときに処理を再開できるようになります。

原因の回復をイネーブルにしない場合、まず **shutdown** コマンドを入力し、次に **no shutdown** コマンドを入力して、手動でインターフェイスを **errdisable** ステートから回復させる必要があります。

設定を確認するには、**show errdisable recovery** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、BPDUガード **errdisable** 原因に対して回復タイマーをイネーブルにする方法を示します。

```
デバイス(config)# errdisable recovery cause bpduguard
```

## errdisable recovery interval

**errdisable** ステートから回復する時間を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **errdisable recovery interval** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable recovery interval timer-interval
no errdisable recovery interval timer-interval
```

構文の説明

*timer-interval* **errdisable** ステートから回復する時間。指定できる範囲は 30 ~ 86400 秒です。すべての原因に同じ間隔が適用されます。デフォルトの間隔は 300 秒です。

コマンド デフォルト

デフォルトの回復間隔は 300 秒です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

**errdisable recovery** のタイマーは、設定された間隔値からランダムな差で初期化されます。実際のタイムアウト値と設定された値の差は、設定された間隔の 15% まで認められます。

設定を確認するには、**show errdisable recovery** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、タイマーを 500 秒に設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# errdisable recovery interval 500
```

# interface

インターフェイスを設定するには、**interface** コマンドを使用します。

```
interface {Auto-Template interface-number | FortyGigabitEthernet
switch-number/slot-number/port-number | GigabitEthernet switch-number/slot-number/port-number |
Group VI Group VI interface number | Internal Interface Internal Interface number | Loopback
interface-number Null interface-number Port-channel interface-number TenGigabitEthernet
switch-number/slot-number/port-number Tunnel interface-number Vlan interface-number }
```

構文の説明

<b>Auto-Template</b> <i>interface-number</i>	自動テンプレート インターフェイスを設定できます。範囲は 1 ~ 999 です。
<b>FortyGigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	40 ギガビットイーサネットインターフェイスを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値は 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> — ポート番号。有効な範囲は 1 ~ 2 です。</li> </ul>
<b>GigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイスを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値の範囲は 0 ~ 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> : ポート番号。有効な範囲は 1 ~ 48 です。</li> </ul>
<b>Group VI</b> <i>Group VI interface number</i>	Group VI インターフェイスを設定できます。範囲は 0 ~ 9 です。
<b>Internal Interface</b> <i>Internal Interface</i>	内部インターフェイスを設定できます。

<b>Loopback</b> <i>interface-number</i>	ループバック インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
<b>Null</b> <i>interface-number</i>	ヌルインターフェイスを設定できます。デフォルト値は 0 です。
<b>Port-channel</b> <i>interface-number</i>	ポートチャネル インターフェイスを設定できます。有効な範囲は 1 ~ 128 です。
<b>TenGigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	10ギガビットイーサネットインターフェイスを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値の範囲は 0 ~ 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> : ポート番号。範囲は 1 ~ 24 および 37 ~ 48 です。</li> </ul>
<b>Tunnel</b> <i>interface-number</i>	トンネルインターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
<b>Vlan</b> <i>interface-number</i>	スイッチ VLAN を設定できます。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは「no」形式を使用できません。

例

次に、トンネルインターフェイスを設定する例を示します。

```
Device(config)# interface Tunnel 15
Device(config-if)#
```

次に、40ギガビットイーサネットインターフェイスを設定する例を示します。

```
Device(config)# interface FortyGigabitEthernet 1/1/2
Device(config-if)#
```

# interface range

インターフェイス範囲を設定するには、**interface range** コマンドを使用します。

**interface range** {**Auto-Template** *interface-number* | **FortyGigabitEthernet** *switch-number/slot-number/port-number* | **GigabitEthernet** *switch-number/slot-number/port-number* | **Group VI** *Group VI interface number* | **Internal Interface** *Internal Interface number* | **Loopback** *interface-number* | **Null** *interface-number* | **Port-channel** *interface-number* | **TenGigabitEthernet** *switch-number/slot-number/port-number* | **Tunnel** *interface-number* | **Vlan** *interface-number* }

## 構文の説明

<b>Auto-Template</b> <i>interface-number</i>	自動テンプレート インターフェイスを設定できます。範囲は 1 ~ 999 です。
<b>FortyGigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	40 ギガビットイーサネット インターフェイスを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値は 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> : ポート番号。有効な範囲は 1 ~ 2 です。</li> </ul>
<b>GigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	ギガビットイーサネット IEEE 802.3z インターフェイスを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値の範囲は 0 ~ 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> : ポート番号。有効な範囲は 1 ~ 48 です。</li> </ul>
<b>Group VI</b> <i>Group VI interface number</i>	Group VI インターフェイスを設定できます。範囲は 0 ~ 9 です。
<b>Internal Interface</b> <i>Internal Interface</i>	内部インターフェイスを設定できます。
<b>Loopback</b> <i>interface-number</i>	ループバック インターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
<b>Null</b> <i>interface-number</i>	ヌルインターフェイスを設定できます。デフォルト値は 0 です。
<b>Port-channel</b> <i>interface-number</i>	ポートチャネル インターフェイスを設定できます。有効な範囲は 1 ~ 128 です。



<b>TenGigabitEthernet</b> <i>switch-number/slot-number/port-number</i>	10ギガビットイーサネットインターフェイスを設定できます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i> : スイッチ ID。有効な範囲は 1 ~ 8 です。</li> <li>• <i>slot-number</i> : スロット番号。値の範囲は 0 ~ 1 です。</li> <li>• <i>port-number</i> : ポート番号。範囲は 1 ~ 24 および 37 ~ 48 です。</li> </ul>
<b>Tunnel</b> <i>interface-number</i>	トンネルインターフェイスを設定できます。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
<b>Vlan</b> <i>interface-number</i>	スイッチ VLAN を設定できます。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、インターフェイス範囲を設定する例を示します。

```
Device(config)# interface range vlan 1-100
```

## ip mtu

スイッチまたはスイッチスタックのすべてのルーテッドポートのルーテッドパケットの IP 最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip mtu** コマンドを使用します。デフォルトの IP MTU サイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip mtu bytes
no ip mtu bytes
```

構文の説明

*bytes* MTU サイズ (バイト単位)。指定できる範囲は 68 からシステム MTU 値 (バイト単位) までです。

**コマンド デフォルト** すべてのスイッチインターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト IP MTU サイズは、1500 バイトです。

**コマンド モード** インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** IP 値の上限は、スイッチまたはスイッチスタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、**system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

デフォルトの IP MTU 設定に戻すには、インターフェイスで **default ip mtu** コマンドまたは **no ip mtu** コマンドを適用します。

設定を確認するには、**show ip interface interface-id** または **show interfaces interface-id** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、VLAN 200 の最大 IP パケットサイズを 1000 バイト に設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface vlan 200
デバイス(config-if)# ip mtu 1000
```

次に、VLAN 200 の最大 IP パケットサイズをデフォルト設定の 1500 バイト に設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface vlan 200
デバイス(config-if)# default ip mtu
```

次に、**show ip interface interface-id** コマンドの出力の一部を示します。インターフェイスの現在の IP MTU 設定が表示されます。

```
デバイス# show ip interface gigabitethernet4/0/1
GigabitEthernet4/0/1 is up, line protocol is up
  Internet address is 18.0.0.1/24
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by setup command
  MTU is 1500 bytes
  Helper address is not set
```

<output truncated>

## ipv6 mtu

スイッチまたはスイッチスタックのすべてのルーテッドポートのルーテッドパケットの IPv6 最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション

ンモードで **ipv6 mtu** コマンドを使用します。デフォルトの IPv6 MTU サイズに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ipv6 mtu bytes**  
**no ipv6 mtu bytes**

構文の説明	<i>bytes</i> MTU サイズ (バイト単位)。指定できる範囲は 1280 からシステム MTU 値 (バイト単位) までです。	
コマンド デフォルト	すべてのスイッチ インターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト IPv6 MTU サイズは、1500 バイトです。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** IPv6 MTU 値の上限は、スイッチまたはスイッチ スタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、**system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

デフォルトの IPv6 MTU 設定に戻すには、インターフェイスで **default ipv6 mtu** コマンドまたは **no ipv6 mtu** コマンドを適用します。

設定を確認するには、**show ipv6 interface interface-id** または **show interface interface-id** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、インターフェイスの最大 IPv6 パケット サイズを 2000 バイトに設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet4/0/1
デバイス(config-if)# ipv6 mtu 2000
```

次に、インターフェイスの最大 IPv6 パケット サイズをデフォルト設定の 1500 バイトに設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet4/0/1
デバイス(config-if)# default ipv6 mtu
```

次に、**show ipv6 interface interface-id** コマンドの出力の一部を示します。インターフェイスの現在の IPv6 MTU 設定が表示されます。

```
デバイス# show ipv6 interface gigabitethernet4/0/1
GigabitEthernet4/0/1 is up, line protocol is up
Internet address is 18.0.0.1/24
Broadcast address is 255.255.255.255
Address determined by setup command
MTU is 1500 bytes
```

lldp (インターフェイス コンフィギュレーション)

```
Helper address is not set
<output truncated>
```

## lldp (インターフェイス コンフィギュレーション)

インターフェイスの Link Layer Discovery Protocol (LLDP) をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **lldp** コマンドを使用します。インターフェイスで LLDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp {med-tlv-select tlv | receive | tlv-select power-management | transmit}
no lldp {med-tlv-select tlv | receive | tlv-select power-management | transmit}
```

構文の説明

<b>med-tlv-select</b>	LLDP Media Endpoint Discovery (LLDP-MED) の Time Length Value (TLV) 要素を送信するように選択します。
<i>tlv</i>	TLV 要素を特定するストリング。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>inventory-management</b> : LLDP MED インベントリ管理 TLV。</li> <li>• <b>location</b> : LLDP MED ロケーション TLV。</li> <li>• <b>network-policy</b> : LLDP MED ネットワーク ポリシー TLV。</li> <li>• <b>power-management</b> : LLDP MED 電源管理 TLV。</li> </ul>
<b>receive</b>	LLDP 伝送を受信するようにインターフェイスをイネーブルにします。
<b>tlv-select</b>	送信する LLDP TLV を選択します。
<b>power-management</b>	LLDP 電源管理 TLV を送信します。
<b>transmit</b>	インターフェイスで LLDP 伝送をイネーブルにします。

コマンド デフォルト LLDP はディセーブルです。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、802.1 メディア タイプでサポートされています。

インターフェイスがトンネルポートに設定されていると、LLDPは自動的にディセーブルになります。

インターフェイスの LLDP 伝送をディセーブルにする例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# no lldp transmit
```

インターフェイスの LLDP 伝送をイネーブルにする例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# lldp transmit
```

## mode (電源スタックの設定)

設定内容 電源スタックの電源スタックモードを設定するには、電源スタック コンフィギュレーションモードで **mode** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mode {power-shared | redundant} [strict]
no mode
```

構文の説明	<b>power-shared</b>	電源スタックが電源共有モードで動作するよう、設定します。これはデフォルトです。
	<b>redundant</b>	電源スタックが冗長モードで動作するよう、設定します。他の電源の1つに障害が発生した場合のバックアップ電源として使用するため、最大の電源が電源プールから削除されます。
	<b>strict</b>	(任意) 電力バジェットが正確に実行されるよう、電源スタックモードを設定します。スタック電力は、使用可能電力を超えることができません。
コマンド デフォルト	デフォルトモードは <b>power-shared</b> および <b>nonstrict</b> です。	
コマンド モード	電源スタックの設定	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、IP Base または IP Services フィーチャセットが実行されているスイッチ スタックでのみ使用できます。

電源スタック コンフィギュレーション モードにアクセスするには、**stack-power stack power stack name** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

**no mode** コマンドを入力すると、スイッチが、デフォルトの **power-shared** モードおよび **non-strict** モードに設定されます。



- (注) スタック電源の場合、使用可能電力は、PoE で使用できる、電源スタックのすべての電源からの合計電力です。使用可能電力は、スタックの PoE ポートに接続されているすべての受電デバイスに割り当てられている電力です。消費電力は、受電デバイスで実際に消費される電力です。

**power-shared** モードでは、すべての入力電力を負荷に使用でき、使用可能な合計電力は1つの大きな電源として扱われます。電力バジェットには、すべての電源から供給されるすべての電力が含まれます。電源障害の場合に除外される電力はありません。電源に障害が発生した場合、負荷制限（受電デバイスまたはスイッチのシャットダウン）が発生する場合があります。

**redundant** モードでは、他の電源の1つに障害が発生した場合のバックアップ電源として使用するため、最大の電源が電源プールから削除されます。使用可能な電力バジェットは、合計電力から最大の電源を差し引いたものです。これによって、スイッチおよび受電デバイスのプールで使用できる電力が減少しますが、障害または過剰な電力負荷が発生した場合に、スイッチまたは受電デバイスのシャットダウンの必要性が小さくなります。

**strict** モードでは、電源に障害が発生し、使用可能な電力が電力バジェットを下回った場合、システムによって、実際の電力が使用可能な電力よりも少ないかのように、受電デバイスの負荷制限を介してバジェットのバランスがとられます。**nonstrict** モードでは、電源スタックは割り当て超過状態で実行でき、実際の電力が使用可能な電力を超過しない限り、安定しています。このモードでは、受電デバイスが通常の電力を超えて電力を引き出すと、電源スタックが負荷制限を開始することがあります。ほとんどの装置は全出力電力では実行されないため、これは、通常、問題ではありません。スタック内で同時に最大電力を必要とする複数の受電デバイスが存在する可能性は、小さいからです。

**strict** モードと **nonstrict** モードの両方とも、電力バジェットに使用可能な電力がなくなった時点で、電力は拒否されます。

次に、**power1** という名前のスタックの電源スタックモードを、電力バジェットを **strict** にした **power-shared** に設定する例を示します。スタック内のすべての電力は共有されますが、使用可能な電力全体が割り当てられた場合、電力を使用できる余分な装置はなくなります。

```
デバイス(config)# stack-power stack power1
デバイス(config-stackpower)# mode power-shared strict
デバイス(config-stackpower)# exit
```

次に、power2 という名前のスタックの電源スタックモードを **redundant** に設定する例を示します。スタック内の最大の電源は電源プールから削除され、他の電源の 1 つが発生した場合に冗長性が提供されます。

```
デバイス(config)# stack-power stack power2
デバイス(config-stackpower)# mode redundant
デバイス(config-stackpower)# exit
```

## network-policy

インターフェイスにネットワークポリシー プロファイルを適用するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **network-policy** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
network-policy profile-number
no network-policy
```

### 構文の説明

*profile-number* インターフェイスに適用するネットワークポリシープロファイル番号

### コマンド デフォルト

ネットワークポリシー プロファイルは適用されません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

インターフェイスにプロファイルを適用するには、**network-policy profile number** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

最初にネットワークポリシー プロファイルを設定する場合、インターフェイスに **switchport voice vlan** コマンドを適用できません。ただし、**switchport voice vlan vlan-id** がすでにインターフェイス上に設定されている場合、ネットワークポリシープロファイルをインターフェイス上に適用できます。その後、インターフェイスは、適用された音声または音声シグナリング VLAN ネットワークポリシー プロファイルを使用します。

次の例では、インターフェイスにネットワークポリシー プロファイル 60 を適用する方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# network-policy 60
```

# network-policyprofile (グローバルコンフィギュレーション)

ネットワークポリシー プロファイルを作成し、ネットワークポリシー コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **network-policy profile** コマンドを使用します。ポリシーを削除して、グローバル コンフィギュレーション モードに戻るには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**network-policy profile** *profile-number*  
**no network-policy profile** *profile-number*

構文の説明

*profile-number* ネットワークポリシー プロファイル番号。指定できる範囲は 1 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

ネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コードポイント (DSCP) の値、およびタギング モードを指定することで、音声および音声シグナリング用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の network-policy Time Length Value (TLV) に含まれます。

次の例では、ネットワークポリシー プロファイル 60 を作成する方法を示します。

```
デバイス(config)# network-policy profile 60
デバイス(config-network-policy)#
```



## power-priority

電源スタックのスイッチと高プライオリティおよび低プライオリティ PoE ポートに対して、Cisco StackPower の電源プライオリティ値を設定するには、スイッチスタック電源コンフィギュレーションモードで **power-priority** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**power-priority** {**high value** | **low value** | **switch value**}  
**no power-priority** {**high** | **low** | **switch**}

### 構文の説明

<b>high value</b>	ポートの電力プライオリティを高プライオリティポートとして設定します。値は1～27です。1が最高のプライオリティです。 <b>high</b> の値は、低プライオリティポートに設定する値よりも小さく、スイッチに設定する値よりも大きくする必要があります。
<b>low value</b>	ポートの電力プライオリティを低プライオリティポートとして設定します。範囲は1～27です。 <b>low</b> の値は、高プライオリティポートおよびスイッチに設定された値よりも大きくする必要があります。
<b>switch value</b>	スイッチの電力プライオリティを設定します。範囲は1～27です。 <b>switch</b> の値は、低プライオリティポートおよび高プライオリティポートに設定された値よりも小さくする必要があります。

### コマンドデフォルト

値が設定されていない場合、電源スタックでは、デフォルトプライオリティがランダムに決定されます。

デフォルトの範囲は、スイッチで1～9、高プライオリティポートで10～18、低プライオリティポートで19～27です。

非 PoE スイッチでは、（ポートプライオリティの）高い値と低い値は、影響がありません。

### コマンドモード

スイッチのスタック電源設定

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

スイッチスタック電源コンフィギュレーションモードにアクセスするには、**stack-power switch switch-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

Cisco StackPower の電源プライオリティ値によって、電源が失われ、負荷制限が発生した場合のスイッチとポートのシャットダウンの順序が決定されます。プライオリティ値は1～27です。最も高い数が最初にシャットダウンされます。

各スイッチ、その高プライオリティポート、および低プライオリティポートでは、異なるプライオリティ値を設定して、電源が失われている間に一度にシャットダウンされる装置数を制限することを推奨します。同じ電源スタックの異なるスイッチに同じプライオリティ値を設定しようとする、設定は許可されますが、警告メッセージが表示されます。



(注) このコマンドは、IP Base または IP Services フィーチャセットが実行されているスイッチスタックでのみ使用できます。

例

次に、電源スタックの switch 1 の電源プライオリティを 7 に、高プライオリティポートを 11 に、低プライオリティポートを 20 に設定する例を示します。

```

デバイス(config)# stack-power switch 1
デバイス(config-switch-stackpower)# stack-id power_stack_a
デバイス(config-switch-stackpower)# power-priority high 11
デバイス(config-switch-stackpower)# power-priority low 20
デバイス(config-switch-stackpower)# power-priority switch 7
デバイス(config-switch-stackpower)# exit
    
```

## power supply

スイッチの内部電源を設定および管理するには、特権 EXEC モードで **power supply** コマンドを使用します。

**power supply** *stack-member-number* **slot** {A | B} {off | on}

構文の説明

<i>stack-member-number</i>	内部電源を設定するスタックメンバ番号。指定できる範囲は、スタック内のスイッチの数に応じて 1 ~ 9 です。 このパラメータは、スタック対応スイッチだけで使用できます。
<b>slot</b>	設定するスイッチの電源を選択します。
<b>A</b>	スロット A の電源を選択します。
<b>B</b>	スロット B の電源を選択します。 (注) 電源スロット B は、スイッチの外側エッジに最も近いスロットです。
<b>off</b>	スイッチの電源をオフに設定します。
<b>on</b>	スイッチの電源をオンに設定します。

コマンド デフォルト      スwitchの電源がオンになります。

コマンドモード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **power supply** コマンドは、スイッチまたはすべてのスイッチが同じプラットフォームであるスイッチスタックに適用されます。

同じプラットフォームスイッチを含むスイッチスタックでは、**slot {A|B} off** または **on** キーワードの入力前にスタックメンバを指定する必要があります。

デフォルト設定に戻すには、**power supply stack-member-number on** コマンドを使用します。

設定を確認するには、**show env power** 特権 EXEC コマンドを入力します。

**例**

次に、スロット A の電源装置をオフに設定する例を示します。

```

デバイス> power supply 2 slot A off
Disabling Power supply A may result in a power loss to PoE devices and/or switches ...
Continue? (yes/[no]): yes
デバイス
Jun 10 04:52:54.389: %PLATFORM_ENV-6-FRU_PS_OIR: FRU Power Supply 1 powered off
Jun 10 04:52:56.717: %PLATFORM_ENV-1-FAN_NOT_PRESENT: Fan is not present
    
```

次に、スロット A の電源装置をオンに設定する例を示します。

```

デバイス> power supply 1 slot B on
Jun 10 04:54:39.600: %PLATFORM_ENV-6-FRU_PS_OIR: FRU Power Supply 1 powered on
    
```

次に、show env power コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show env power
SW  PID                Serial#      Status          Sys Pwr  PoE Pwr  Watts
--  -
1A  PWR-1RUC2-640WAC    DCB1705B05B OK           Good     Good     250/390
1B  Not Present
    
```

## show beacon all

デバイス上のビーコン LED のステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show beacon all** コマンドを使用します。

```
show beacon {rp {active | standby} | slot slot-number } | all
```

構文の説明	<b>rp {active   standby}</b>	ビーコン LED のステータスを表示するアクティブまたはスタンバイのスイッチを指定します。
-------	------------------------------	---

<b>slot slot-num</b>	ビーコン LED のステータスを表示するスロットを指定します。
<b>all</b>	すべてのビーコン LED のステータスを表示します。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

コマンド デフォルト このコマンドには、デフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

使用上のガイドライン すべてのビーコン LED のステータスを確認するには、**show beacon all** コマンドを使用します。

**show beacon all** コマンドの出力例。

```
Device#show beacon all
Switch# Beacon Status
-----
*1 OFF
```

**show beacon rp** コマンドの出力例。

```
Device#show beacon rp active
Switch# Beacon Status
-----
*1 OFF
```

```
Device#show beacon slot 1
Switch# Beacon Status
-----
*1 OFF
```

## show env

ファン、温度、および電源情報を表示するには、EXEC モードで **show env** コマンドを使用します。

**show env** {**all** | **fan** | **power** [{**all** | **switch** [*stack-member-number*]}] | **stack** [*stack-member-number*] | **temperature** [*status*]}

構文の説明	<b>all</b>	ファンと温度環境の状態、および、内部電源を表示します。
-------	------------	-----------------------------

<b>fan</b>	スイッチのファンの状態を表示します。
<b>power</b>	アクティブスイッチの内部電源の状態を表示します。
<b>all</b>	(任意) スイッチでコマンドが入力された場合、スタンドアロンスイッチのすべての内部電源の状態が表示されます。アクティブスイッチでコマンドが入力された場合は、すべてのスタックメンバのすべての内部電源の状態が表示されます。
<b>switch</b>	(任意) スタック内の各スイッチまたは指定したスイッチの内部電源装置のステータスを表示します。  このキーワードは、スタック構成対応スイッチでだけ使用できます。
<i>stack-member-number</i>	(任意) 内部電源または環境ステータスの状態を表示するスタックメンバの数。
<b>stack</b>	スタックの各スイッチまたは指定されたスイッチのすべての環境ステータスを表示します。  このキーワードは、スタック構成対応スイッチでだけ使用できます。
<b>temperature</b>	スイッチの温度ステータスを表示します。
<b>status</b>	(任意) スイッチの内部温度 (外部温度ではなく) およびしきい値を表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** アクセスされているスイッチ (スタンドアロンスイッチまたはアクティブスイッチ) の情報を表示するには、**show env EXEC** コマンドを使用します。**stack** および **switch** キーワードとともにこのコマンドを使用すると、スタックまたは指定されたスタックメンバのすべての情報が表示されます。

**show env temperature status** コマンドを入力すると、コマンド出力にスイッチの温度状態としきい値レベルが表示されます。

**show env temperature** コマンドを使用して、スイッチの温度状態を表示することもできます。コマンド出力では、GREENおよびYELLOWステートをOKと表示し、REDステートを *FAULTY* と表示します。**show env all** コマンドを入力した場合のコマンド出力は、**show env temperature status** コマンド出力と同じです。

例

次に、アクティブスイッチでの **show env power all** コマンドの出力例を示します。

表 1: **show env temperature status** コマンド出力のステート

状態	説明
グリーン	スイッチの温度が正常な動作範囲にあります。
イエロー	温度が警告範囲にあります。スイッチの外の周辺温度を確認する必要があります。
レッド	温度がクリティカル範囲にあります。温度がこの範囲にある場合、スイッチが正常に実行されない可能性があります。

## show errdisable detect

errdisable 検出ステータスを表示するには、EXEC モードで **show errdisable detect** コマンドを使用します。

### show errdisable detect

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

gbic-invalid エラーの理由は、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを意味します。

コマンド出力内の **errdisable** の理由がアルファベット順に表示されます。Mode 列は、**errdisable** が機能ごとにどのように設定されているかを示します。

errdisable 検出は次のモードで設定できます。

- ポート モード：違反が発生した場合、物理ポート全体が errdisable になります。
- VLAN モード：違反が発生した場合、VLAN が errdisable になります。
- ポート/VLANモード：一部のポートでは物理ポート全体が errdisable になり、その他のポートでは VLAN ごとに errdisable になります。

## show errdisable recovery

errdisable 回復タイマー情報を表示するには、EXEC モードで **show errdisable recovery** コマンドを使用します。

### show errdisable recovery

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

gbic-invalid error-disable の理由は、無効な Small Form-Factor Pluggable (SFP) インターフェイスを意味します。



(注) unicast-flood フィールドは、出力に表示はされますが無効です。

次に、**show errdisable recovery** コマンドの出力例を示します。

## show ip interface

IPに設定されているインターフェイスのユーザビリティステータスを表示するには、特権EXECモードで **show ip interface** コマンドを使用します。

**show ip interface** [*type number*] [**brief**]

show ip interface

構文の説明	<p><i>type</i> (任意) インターフェイス タイプ。</p> <p><i>number</i> (任意) インターフェイス番号。</p> <p><b>brief</b> (任意) 各インターフェイスのユーザビリティ ステータスの概要を表示します。</p> <p>(注) <b>show ip interface brief</b> コマンドの出力には、対応するネットワークモジュールが接続されているかどうかに関係なく、使用可能なすべてのインターフェイスの情報が表示されます。それらのインターフェイスのうち、ネットワークモジュールが接続されているインターフェイスは設定が可能です。接続されているネットワークモジュールを確認するには、<b>show interface status</b> コマンドを実行します。</p> <p>これは Cisco Catalyst 9500 シリーズ ハイパフォーマンス スイッチには適用されません。</p>
-------	---

**コマンド デフォルト** IP に設定されているすべてのインターフェイスの完全なユーザビリティステータスが表示されます。

**コマンド モード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** インターフェイスが使用可能な場合（つまりパケットの送受信が可能な場合）、Cisco IOS ソフトウェアは、直接接続されているルートをルーティングテーブルに自動的に入力します。インターフェイスが使用可能でない場合は、直接接続されているルーティングエントリがルーティングテーブルから削除されます。エントリを削除することにより、ソフトウェアはダイナミック ルーティング プロトコルを使用してネットワークへのバックアップルートを決定できません（存在する場合）。

インターフェイスが双方向通信を提供できる場合、回線プロトコルは「up」とマークされません。インターフェイスのハードウェアが使用できる場合、インターフェイスは up とマークされます。

オプションでインターフェイスタイプを指定すると、その特定のインターフェイスに関する情報が表示されます。省略可能な引数を指定しない場合は、すべてのインターフェイスに関する情報が表示されます。

PPP またはシリアル ライン インターネット プロトコル (SLIP) によって非同期インターフェイスがカプセル化されると、IP 高速スイッチングがイネーブルになります。**show ip interface** コマンドを PPP または SLIP でカプセル化された非同期インターフェイスで実行すると、IP ファストスイッチングがイネーブルであることを示すメッセージが表示されます。



**show ip interface brief** コマンドを使用すると、デバイスインターフェイスのサマリーを表示できます。このコマンドでは、IPアドレス、インターフェイスのステータス、およびその他の情報が表示されます。

**show ip interface brief** コマンドでは、ユニキャスト RPF に関連する情報は表示されません。

## 例

次に、ギガビットイーサネット インターフェイス 1/0/1 のインターフェイス情報の例を示します。

```
Device# show ip interface gigabitethernet 1/0/1

GigabitEthernet1/0/1 is up, line protocol is up
  Internet address is 10.1.1.1/16
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by setup command
  MTU is 1500 bytes
  Helper address is not set
  Directed broadcast forwarding is disabled
  Outgoing access list is not set
  Inbound access list is not set
  Proxy ARP is enabled
  Local Proxy ARP is disabled
  Security level is default
  Split horizon is enabled
  ICMP redirects are always sent
  ICMP unreachable are always sent
  ICMP mask replies are never sent
  IP fast switching is enabled
  IP fast switching on the same interface is disabled
  IP Flow switching is disabled
  IP CEF switching is enabled
  IP Feature Fast switching turbo vector
  IP VPN Flow CEF switching turbo vector
  IP multicast fast switching is enabled
  IP multicast distributed fast switching is disabled
  IP route-cache flags are Fast, CEF
  Router Discovery is disabled
  IP output packet accounting is disabled
  IP access violation accounting is disabled
  TCP/IP header compression is disabled
  RTP/IP header compression is disabled
  Policy routing is enabled, using route map PBR
  Network address translation is disabled
  BGP Policy Mapping is disabled
  IP Multi-Processor Forwarding is enabled
    IP Input features, "PBR",
      are not supported by MPF and are IGNORED
    IP Output features, "NetFlow",
      are not supported by MPF and are IGNORED
```

次に、特定の VLAN のユーザビリティステータスを表示する例を示します。

```
Device# show ip interface vlan 1

Vlan1 is up, line protocol is up
  Internet address is 10.0.0.4/24
  Broadcast address is 255.255.255.255
  Address determined by non-volatile memory
  MTU is 1500 bytes
```

```

Helper address is not set
Directed broadcast forwarding is disabled
Outgoing access list is not set
Inbound access list is not set
Proxy ARP is enabled
Local Proxy ARP is disabled
Security level is default
Split horizon is enabled
ICMP redirects are always sent
ICMP unreachable are always sent
ICMP mask replies are never sent
IP fast switching is enabled
IP fast switching on the same interface is disabled
IP Flow switching is disabled
IP CEF switching is enabled
IP Fast switching turbo vector
IP Normal CEF switching turbo vector
IP multicast fast switching is enabled
IP multicast distributed fast switching is disabled
IP route-cache flags are Fast, CEF
Router Discovery is disabled
IP output packet accounting is disabled
IP access violation accounting is disabled
TCP/IP header compression is disabled
RTP/IP header compression is disabled
Probe proxy name replies are disabled
Policy routing is disabled
Network address translation is disabled
WCCP Redirect outbound is disabled
WCCP Redirect inbound is disabled
WCCP Redirect exclude is disabled
BGP Policy Mapping is disabled
Sampled Netflow is disabled
IP multicast multilayer switching is disabled
Netflow Data Export (hardware) is enabled
    
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 2: *show ip interface* のフィールドの説明

フィールド	説明
Broadcast address is	ブロードキャスト アドレス。
Peer address is	ピアアドレス。
MTU is	インターフェイスに設定されている MTU 値 (バイト)。
Helper address	ヘルパーアドレス (設定されている場合)。
Directed broadcast forwarding	ダイレクトブロードキャスト転送がイネーブルであるかどうかを示します。
Outgoing access list	インターフェイスに発信アクセスリストが設定されているかどうかを示します。
Inbound access list	インターフェイスに着信アクセスリストが設定されているかどうかを示します。

フィールド	説明
Proxy ARP	インターフェイスに対してプロキシ Address Resolution Protocol (ARP) がイネーブルであるかどうかを示します。
Security level	このインターフェイスに対して設定されている IP Security Option (IPSO) セキュリティ レベル。
Split horizon	スプリットホライズンがイネーブルであるかどうかを示します。
ICMP redirects	このインターフェイスでリダイレクトメッセージが送信されるかどうかを示します。
ICMP unreachable	このインターフェイスで到達不能メッセージが送信されるかどうかを示します。
ICMP mask replies	このインターフェイスでマスク応答が送信されるかどうかを示します。
IP fast switching	このインターフェイスに対してファストスイッチングがイネーブルであるかどうかを示します。通常、このようなシリアルインターフェイスではイネーブルになります。
IP Flow switching	このインターフェイスに対してフロースイッチングがイネーブルであるかどうかを示します。
IP CEF switching	インターフェイスに対して Cisco Express Forwarding スwitching がイネーブルであるかどうかを示します。
IP multicast fast switching	インターフェイスに対してマルチキャスト ファスト スwitching がイネーブルであるかどうかを示します。
IP route-cache flags are Fast	インターフェイスで NetFlow がイネーブルであるかどうかを示します。インターフェイスで NetFlow がイネーブルになっている場合は、「Flow init」と表示されます。 <b>ip flow ingress</b> コマンドを使用してサブインターフェイスで NetFlow がイネーブルになっている場合は、「Ingress Flow」と表示されます。 <b>ip route-cache flow</b> コマンドを使用してメインインターフェイスで NetFlow がイネーブルになっている場合は、「Flow」と表示されます。
Router Discovery	このインターフェイスに対して探索プロセスがイネーブルであるかどうかを示します。通常、シリアルインターフェイスではディセーブルになります。
IP output packet accounting	このインターフェイスに対して IP アカウンティングがイネーブルであるかどうかとしきい値 (エントリの最大数) を示します。
TCP/IP header compression	圧縮がイネーブルであるかどうかを示します。

show ip interface

フィールド	説明
WCCP Redirect outbound is disabled	インターフェイスで受信されたパケットがキャッシュエンジンにリダイレクトされるかどうかのステータスを示します。「enabled」または「disabled」のいずれかが表示されます。
WCCP Redirect exclude is disabled	インターフェイスへ向かうパケットがキャッシュエンジンへのリダイレクトから除外されるかどうかのステータスを示します。「enabled」または「disabled」のいずれかが表示されます。
Netflow Data Export (hardware) is enabled	インターフェイスの NetFlow データエクスポート (NDE) ハードウェア フロー ステータス。

次に、各インターフェイスのユーザビリティステータス情報のサマリーを表示する例を示します。

Device# **show ip interface brief**

```

Interface          IP-Address      OK? Method Status          Protocol
Vlan1              unassigned     YES NVRAM   administratively down  down
GigabitEthernet0/0 unassigned     YES NVRAM   down            down
GigabitEthernet1/0/1 unassigned     YES NVRAM   down            down
GigabitEthernet1/0/2 unassigned     YES unset   down            down
GigabitEthernet1/0/3 unassigned     YES unset   down            down
GigabitEthernet1/0/4 unassigned     YES unset   down            down
GigabitEthernet1/0/5 unassigned     YES unset   down            down
GigabitEthernet1/0/6 unassigned     YES unset   down            down
GigabitEthernet1/0/7 unassigned     YES unset   down            down
    
```

<output truncated>

表 3: show ip interface brief のフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	インターフェイスのタイプ。
IP-Address	インターフェイスに割り当てられている IP アドレス。
OK?	「Yes」は、その IP アドレスが有効であることを意味します。「No」は、その IP アドレスが有効でないことを意味します。

フィールド	説明
Method	<p>Method フィールドの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• RARP または SLARP : Reverse Address Resolution Protocol (RARP) または Serial Line Address Resolution Protocol (SLARP) 要求。</li> <li>• BOOTP : ブートストラッププロトコル。</li> <li>• TFTP : TFTP サーバから取得したコンフィギュレーション ファイル。</li> <li>• manual : コマンドライン インターフェイスでの手動変更。</li> <li>• NVRAM : NVRAM のコンフィギュレーション ファイル。</li> <li>• IPCP : <b>ip address negotiated</b> コマンド。</li> <li>• DHCP : <b>ip address dhcp</b> コマンド。</li> <li>• unset : 未設定。</li> <li>• other : 不明。</li> </ul>
Status	<p>インターフェイスのステータスを示します。有効な値とその意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• up : インターフェイスはアップ状態です。</li> <li>• down: Interface is down.</li> <li>• administratively down : インターフェイスは管理上の目的でダウンしています。</li> </ul>
Protocol	<p>このインターフェイス上のルーティングプロトコルの稼働ステータスを示します。</p>

関連コマンド

Command	Description
<b>ip interface</b>	Secure Socket Layer Virtual Private Network (SSL VPN) ゲートウェイの仮想ゲートウェイ IP インターフェイスを設定します。
<b>show interface status</b>	インターフェイスの状態が表示されます。

## show interfaces

すべてのインターフェイスまたは指定したインターフェイスの管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、EXEC モードで **show interfaces** コマンドを使用します。

```
show interfaces [{interface-id | vlan vlan-id}] [{accounting | capabilities [module number] |
debounce | description | etherchannel | flowcontrol | private-vlan mapping | pruning | stats | status
[err-disabled | inactive]} | trunk}]
```

構文の説明

<i>interface-id</i>	(任意) インターフェイスの ID です。有効なインターフェイスには、物理ポート (タイプ、スタック構成可能なスイッチのスタック メンバ、モジュール、およびポート番号を含む) やポート チャンネルが含まれます。指定できるポート チャンネルは 1 ~ 48 です。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	(任意) VLAN ID です。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
<b>accounting</b>	(任意) インターフェイスのアカウント情報 (アクティブプロトコル、入出力の packets、オクテットを含む) を表示します。  (注) ソフトウェアで処理された packets だけが表示されます。ハードウェアでスイッチングされる packets は表示されません。
<b>capabilities</b>	(任意) すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスの性能 (機能、インターフェイス上で設定可能なオプションを含む) を表示します。このオプションはコマンドラインのヘルプに表示されますが、VLAN ID に使用できません。
<b>module</b> <i>number</i>	(任意) スイッチまたは指定されたスタック メンバのすべてのインターフェイスの機能を表示します。  指定できる範囲は 1 ~ 9 です。  このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。

<b>description</b>	<p>(任意) インターフェイスに設定された管理ステータスおよび説明を表示します。</p> <p>(注) <b>show interfaces description</b> コマンドの出力には、対応するネットワークモジュールが接続されているかどうかに関係なく、使用可能なすべてのインターフェイスの情報が表示されます。それらのインターフェイスのうち、ネットワークモジュールが接続されているインターフェイスは設定が可能です。接続されているネットワークモジュールを確認するには、<b>show interface status</b> コマンドを実行します。</p> <p>これは Cisco Catalyst 9500 シリーズ ハイパフォーマンス スイッチには適用されません。</p>
<b>etherchannel</b>	<p>(任意) インターフェイス EtherChannel 情報を表示します。</p>
<b>flowcontrol</b>	<p>(任意) インターフェイスのフロー制御情報を表示します。</p>
<b>private-vlan mapping</b>	<p>(任意) VLAN スイッチ仮想インターフェイス (SVI) のプライベート VLAN のマッピング情報を表示します。スイッチが LAN Base フィーチャセットを実行している場合、このキーワードは使用できません。</p>
<b>pruning</b>	<p>(任意) インターフェイスのトランク VTP プルーニング情報を表示します。</p>
<b>stats</b>	<p>(任意) インターフェイスのパスを切り替えることによる入出力パケットを表示します。</p>
<b>status</b>	<p>(任意) インターフェイスのステータスを表示します。Type フィールドの <b>unsupported</b> のステータスは、他社製の <b>Small Form-Factor Pluggable (SFP)</b> モジュールがモジュール スロットに装着されていることを示しています。</p>
<b>err-disabled</b>	<p>(任意) <b>errdisable</b> ステートのインターフェイスを表示します。</p>
<b>inactive</b>	<p>(任意) 非アクティブ ステートのインターフェイスを表示します。</p>
<b>trunk</b>	<p>(任意) インターフェイス トランク情報を表示します。インターフェイスを指定しない場合は、アクティブなトランッキング ポートの情報だけが表示されます。</p>



(注) **crb**、**fair-queue**、**irb**、**mac-accounting**、**precedence**、**random-detect**、**rate-limit**、および **shape** キーワードはコマンドラインのヘルプ スtringに表示されますが、サポートされていません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

**show interfaces capabilities** コマンドに異なるキーワードを指定することで、次のような結果になります。

- **show interface capabilities module number** コマンドを使用して、スタックのスイッチ上のすべてのインターフェイスの機能を表示します。スタック内に該当するモジュール番号を持つスイッチがない場合、出力はありません。
- 指定されたインターフェイスの機能を表示するには、**show interfaces interface-id capabilities** を使用します。
- スタック内のすべてのインターフェイスの機能を表示するには、**show interfaces capabilities** を使用します (モジュール番号またはインターフェイス ID の指定なし)。



(注) コマンド出力に表示される **Last Input** フィールドは、最後のパケットがインターフェイスによって正常に受信され、デバイスの CPU によって処理されてから経過した時間、分、および秒数を示します。この情報は、デッドインターフェイスに障害が発生した時間を知るために使用できます。

**Last Input** は、ファースト スイッチングされたトラフィックでは更新されません。

コマンド出力に表示される **output** フィールドは、最後のパケットがインターフェイスによって正常に送信されてから経過した時間、分、および秒数を示します。このフィールドによって示される情報は、デッドインターフェイスに障害が発生した時間を知るために役立ちます。

```
Device# show interfaces accounting

Vlan1
      Protocol  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
      IP         0         0           6         378

Vlan200
      Protocol  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
No traffic sent or received on this interface.
```



```
GigabitEthernet0/0
      Protocol  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
      Other    165476   11417844   0           0
      Spanning Tree 1240284  64494768   0           0
        ARP      7096    425760     0           0
        CDP      41368   18781072   82908      35318808
GigabitEthernet1/0/1
      Protocol  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
No traffic sent or received on this interface.
GigabitEthernet1/0/2
      Protocol  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
No traffic sent or received on this interface.

<output truncated>
```

次の例では、**description** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスを *Connects to Marketing* として指定した場合の **show interfaces interface description** コマンドの出力を示します。

```
Device# show interfaces fortyGigabitEthernet6/0/2 description

Interface          Status          Protocol Description
Fo1/0/2            up              Connects to Marketing
```

```
Device# show interfaces etherchannel
----
Port-channel34:
Age of the Port-channel = 28d:18h:51m:46s
Logical slot/port      = 12/34          Number of ports = 0
GC                     = 0x00000000     HotStandBy port = null
Passive port list      =
Port state             = Port-channel L3-Ag Ag-Not-Inuse
Protocol               = -
Port security          = Disabled
```

次の例では、指定した VLAN インターフェイスの **show interfaces stats** コマンドの出力を示します。

```
Device# show interfaces vlan 1 stats

Switching path  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
  Processor    1165354   136205310  570800     91731594
  Route cache      0         0           0           0
  Total        1165354   136205310  570800     91731594
```

次に、**show interfaces status err-disabled** コマンドの出力例を示します。errdisable ステータスのインターフェイスのステータスを表示します。

```
Device# show interfaces status err-disabled

Port   Name          Status          Reason
Fo1/0/2      err-disabled   gbic-invalid
Fo2/0/3      err-disabled   dtp-flap
```

次の例では、**show interfaces interface-id pruning** コマンドの出力を示します。

```
Device# show interfaces gigabitethernet1/0/2 pruning
```

```
Port Vlans pruned for lack of request by neighbor
```

次に、**show interfaces description** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show interfaces description

Interface                Status      Protocol Description
Vl1                      admin down  down
Gi0/0                   down        down
Gi1/0/1                 down        down
Gi1/0/2                 down        down
Gi1/0/3                 down        down
Gi1/0/4                 down        down
Gi1/0/5                 down        down
Gi1/0/6                 down        down
Gi1/0/7                 down        down

<output truncated>
```

## show interfaces counters

スイッチまたは特定のインターフェイスのさまざまなカウンタを表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces counters** コマンドを使用します。

```
show interfaces [interface-id] counters [{errors | etherchannel | module stack-member-number | protocol status | trunk}]
```

### 構文の説明

<i>interface-id</i>	(任意) 物理インターフェイスの ID (タイプ、スタック メンバ (スタック構成可能なスイッチのみ)、モジュール、ポート番号を含む)。
<b>errors</b>	(任意) エラー カウンタを表示します。
<b>etherchannel</b>	(任意) 送受信されたオクテット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケット、およびユニキャストパケットなど、EtherChannel カウンタを表示します。
<b>module</b> <i>stack-member-number</i>	(任意) 指定されたスタック メンバのカウンタを表示します。 指定できる範囲は 1 ~ 9 です。  (注) このコマンドでは、 <b>module</b> キーワードはスタックメンバ番号を参照しています。インターフェイス ID に含まれるモジュール番号は、常に 0 です。
<b>protocol status</b>	(任意) インターフェイスでイネーブルになっているプロトコルのステータスを表示します。
<b>trunk</b>	(任意) トランク カウンタを表示します。



(注) **vlan** *vlan-id* キーワードは、コマンドラインのヘルプ文字列には表示されますが、サポートされていません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

キーワードを入力しない場合は、すべてのインターフェイスのすべてのカウンタが表示されません。

次の例では、**show interfaces counters** コマンドの出力の一部を示します。スイッチのすべてのカウンタが表示されます。

```

デバイス# show interfaces counters
Port          InOctets      InUcastPkts   InMcastPkts   InBcastPkts
Gi1/0/1       0              0              0              0
Gi1/0/2       0              0              0              0
Gi1/0/3       95285341      43115         1178430       1950
Gi1/0/4       0              0              0              0
    
```

<output truncated>

次の例では、スタックメンバ2に対する **show interfaces counters module** コマンドの出力の一部を示します。スタック内で指定されたスイッチのすべてのカウンタが表示されます。

```

デバイス# show interfaces counters module 2
Port          InOctets      InUcastPkts   InMcastPkts   InBcastPkts
Gi1/0/1       520           2              0              0
Gi1/0/2       520           2              0              0
Gi1/0/3       520           2              0              0
Gi1/0/4       520           2              0              0
    
```

<output truncated>

次の例では、すべてのインターフェイスに対する **show interfaces counters protocol status** コマンドの出力の一部を示します。

```

デバイス# show interfaces counters protocol status
Protocols allocated:
Vlan1: Other, IP
Vlan20: Other, IP, ARP
Vlan30: Other, IP, ARP
Vlan40: Other, IP, ARP
Vlan50: Other, IP, ARP
Vlan60: Other, IP, ARP
    
```

## show interfaces switchport

```
Vlan70: Other, IP, ARP
Vlan80: Other, IP, ARP
Vlan90: Other, IP, ARP
Vlan900: Other, IP, ARP
Vlan3000: Other, IP
Vlan3500: Other, IP
GigabitEthernet1/0/1: Other, IP, ARP, CDP
GigabitEthernet1/0/2: Other, IP
GigabitEthernet1/0/3: Other, IP
GigabitEthernet1/0/4: Other, IP
GigabitEthernet1/0/5: Other, IP
GigabitEthernet1/0/6: Other, IP
GigabitEthernet1/0/7: Other, IP
GigabitEthernet1/0/8: Other, IP
GigabitEthernet1/0/9: Other, IP
GigabitEthernet1/0/10: Other, IP, CDP
```

<output truncated>

次に、**show interfaces counters trunk** コマンドの出力例を示します。すべてのインターフェイスのトランク カウンタが表示されます。

```
デバイス# show interfaces counters trunk
Port      TrunkFramesTx  TrunkFramesRx  WrongEncap
Gi1/0/1   0               0               0
Gi1/0/2   0               0               0
Gi1/0/3   80678          0               0
Gi1/0/4   82320          0               0
Gi1/0/5   0               0               0
```

<output truncated>

## show interfaces switchport

ポートブロッキング、ポート保護設定など、スイッチング（非ルーティング）ポートの管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces switchport** コマンドを使用します。

```
show interfaces [interface-id] switchport [{backup [detail] | module number}]
```

### 構文の説明

<b><i>interface-id</i></b>	(任意) インターフェイスの ID です。有効なインターフェイスには、物理ポート（タイプ、スタック構成可能なスイッチのスタックメンバ、モジュール、およびポート番号を含む）やポートチャネルが含まれます。指定できるポートチャネルは 1 ~ 48 です。
<b>backup</b>	(任意) 指定したインターフェイスまたはすべてのインターフェイスの Flex Link バックアップ インターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
<b>detail</b>	(任意) スイッチまたはスタック上の指定したインターフェイスまたはすべてのインターフェイスの詳細なバックアップ情報を表示します。

**module number** (任意) スイッチまたは指定されたスタック メンバのすべてのインターフェイスのスイッチポート設定を表示します。

指定できる範囲は 1 ~ 9 です。

このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スタックのスイッチ上のすべてのインターフェイスのスイッチポート特性を表示するには、**show interface switchport module number** コマンドを使用します。スタック内に該当するモジュール番号を持つスイッチがない場合、出力はありません。

次の例では、ポートの **show interfaces switchport** コマンドの出力を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。



(注) プライベート VLAN はこのリリースではサポートされないため、フィールドは適用されません。

```

デバイス# show interfaces gigabitethernet1/0/1 switchport
Name: Gi1/0/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: trunk
Operational Mode: down
Administrative Trunking Encapsulation: dot1q
Negotiation of Trunking: On
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 10 (VLAN0010)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings: none
Operational private-vlan: none
Trunking VLANs Enabled: 11-20
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
    
```

show interfaces switchport

```
Protected: false
Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
```

フィールド	説明
Name	ポート名を表示します。
Switchport	ポートの管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。この出力の場合、ポートはスイッチポートモードです。
Administrative Mode Operational Mode	管理モードおよび動作モードを表示します。
Administrative Trunking Encapsulation Operational Trunking Encapsulation Negotiation of Trunking	管理上および運用上のカプセル化方式、およびトランキング ネゴシエーションがイネーブルかどうかを表示します。
Access Mode VLAN	ポートを設定する VLAN ID を表示します。
Trunking Native Mode VLAN Trunking VLANs Enabled Trunking VLANs Active	ネイティブモードのトランクの VLAN ID を一覧表示します。トランク上の許可 VLAN を一覧表示します。トランク上のアクティブ VLAN を一覧表示します。
Pruning VLANs Enabled	プルーニングに適格な VLAN を一覧表示します。
Protected	インターフェイス上で保護ポートがイネーブル (True) であるかまたはディセーブル (False) であるかを表示します。
Unknown unicast blocked Unknown multicast blocked	不明なマルチキャストおよび不明なユニキャストトラフィックがインターフェイス上でブロックされているかどうかを表示します。
Voice VLAN	音声 VLAN がイネーブルである VLAN ID を表示します。
Appliance trust	IP Phone のデータパケットのサービスクラス (CoS) 設定を表示します。

次に、**show interfaces switchport backup** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス# show interfaces switchport backup
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface    Backup Interface    State
```

```
-----
Gi1/0/1          Gi1/0/2          Active Up/Backup Standby
Gi3/0/3          Gi4/0/5          Active Down/Backup Up
Po1              Po2              Active Standby/Backup Up
```

**show interfaces switchport backup** コマンドからの出力例では、スイッチに VLAN 1 ~ 50、60、および 100 ~ 120 が設定されています。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet 2/0/6
デバイス(config-if)# switchport backup interface gigabitethernet 2/0/8
prefer vlan 60,100-120
```

両方のインターフェイスが動作中の場合は、Gi2/0/8 が VLAN 60 および VLAN 100 ~ 120 のトラフィックを転送し、Gi2/0/6 が VLAN 1 ~ 50 のトラフィックを転送します。

デバイス# **show interfaces switchport backup**

```
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Up/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6: 1-50
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがダウンすると (LINK\_DOWN)、このインターフェイスで優先される VLAN は、Flex Link ペアのピア インターフェイスに移動します。この例では、インターフェイス Gi2/0/6 がダウンして、Gi2/0/8 が Flex Link ペアのすべての VLAN を引き継ぎます。

デバイス# **show interfaces switchport backup**

```
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Down/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6:
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 1-50, 60, 100-120
```

Flex Link インターフェイスがアップになると、このインターフェイスで優先される VLAN はピア インターフェイスでブロックされ、アップしたインターフェイスでフォワーディング ステートになります。この例では、インターフェイス Gi2/0/6 がアップになると、このインターフェイスで優先される VLAN はピア インターフェイス Gi2/0/8 でブロックされ、Gi2/0/6 で転送されます。

デバイス# **show interfaces switchport backup**

```
Switch Backup Interface Pairs:
Active Interface      Backup Interface      State
-----
GigabitEthernet2/0/6  GigabitEthernet2/0/8  Active Up/Backup Up
Vlans on Interface Gi 2/0/6: 1-50
Vlans on Interface Gi 2/0/8: 60, 100-120
```

# show interfaces transceiver

Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールインターフェイスの物理インターフェイスを表示するには、EXEC モードで **show interfaces transceiver** コマンドを使用します。

**show interfaces** [*interface-id*] **transceiver** [{*detail* | *module number* | *properties* | *supported-list* | *threshold-table*}]

構文の説明	<i>interface-id</i>	(任意) 物理インターフェイスの ID (タイプ、スタックメンバ (スタック構成可能なスイッチのみ)、モジュール、ポート番号を含む)。
	<b>detail</b>	(任意) (スイッチにインストールされている場合) Digital Optical Monitoring (DoM) 対応トランシーバの高低値やアラーム情報などの、調整プロパティを表示します。
	<b>module number</b>	(任意) スwitchのモジュールのインターフェイスへの表示を制限します。このオプションは、特定のインターフェイス ID を入力したときは利用できません。
	<b>properties</b>	(任意) インターフェイスの速度、デュプレックス、およびインラインパワー設定を表示します。
	<b>supported-list</b>	(任意) サポートされるトランシーバをすべて表示します。
	<b>threshold-table</b>	(任意) アラームおよび警告しきい値テーブルを表示します。

コマンドモード	ユーザ EXEC 特権 EXEC
---------	---------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例  
次の例では、**show interfaces interface-id transceiver detail** コマンドの出力を示します。

```

デバイス# show interfaces gigabitethernet1/1/1 transceiver detail
ITU Channel not available (Wavelength not available),
Transceiver is internally calibrated.
mA:milliamperes, dBm:decibels (milliwatts), N/A:not applicable.
++:high alarm, +:high warning, -:low warning, -- :low alarm.
A2D readouts (if they differ), are reported in parentheses.
The threshold values are uncalibrated.

          High Alarm High Warn Low Warn Low Alarm
          Threshold  Threshold Threshold Threshold
Port      Temperature (Celsius) (Celsius) (Celsius) (Celsius)
    
```



```

-----
Gi1/1/1 29.9          74.0  70.0  0.0  -4.0
          High Alarm High Warn Low Warn Low Alarm
          Threshold Threshold Threshold Threshold
Port      (Volts)   (Volts) (Volts) (Volts) (Volts)
-----
Gi1/1/1 3.28          3.60  3.50  3.10  3.00
          High Alarm High Warn Low Warn Low Alarm
          Threshold Threshold Threshold Threshold
Port      (dBm)     (dBm)  (dBm)  (dBm)  (dBm)
-----
Gi1/1/1 1.8           7.9   3.9   0.0  -4.0
          High Alarm High Warn Low Warn Low Alarm
          Threshold Threshold Threshold Threshold
Port      (dBm)     (dBm)  (dBm)  (dBm)  (dBm)
-----
Gi1/1/1 -23.5          -5.0  -9.0  -28.2 -32.2

```

次に、**show interfaces transceiver threshold-table** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show interfaces transceiver threshold-table
          Optical Tx   Optical Rx   Temp   Laser Bias   Voltage
          -----   -----   -----   -----   -----
          current
          -----

DWDM GBIC
Min1      -4.00      -32.00      -4      N/A          4.65
Min2      0.00       -28.00      0       N/A          4.75
Max2      4.00       -9.00      70      N/A          5.25
Max1      7.00       -5.00      74      N/A          5.40

DWDM SFP
Min1      -4.00      -32.00      -4      N/A          3.00
Min2      0.00       -28.00      0       N/A          3.10
Max2      4.00       -9.00      70      N/A          3.50
Max1      8.00       -5.00      74      N/A          3.60

RX only WDM GBIC
Min1      N/A       -32.00      -4      N/A          4.65
Min2      N/A       -28.30      0       N/A          4.75
Max2      N/A       -9.00      70      N/A          5.25
Max1      N/A       -5.00      74      N/A          5.40

DWDM XENPAK
Min1      -5.00      -28.00      -4      N/A          N/A
Min2      -1.00      -24.00      0       N/A          N/A
Max2      3.00       -7.00      70      N/A          N/A
Max1      7.00       -3.00      74      N/A          N/A

DWDM X2
Min1      -5.00      -28.00      -4      N/A          N/A
Min2      -1.00      -24.00      0       N/A          N/A
Max2      3.00       -7.00      70      N/A          N/A
Max1      7.00       -3.00      74      N/A          N/A

DWDM XFP
Min1      -5.00      -28.00      -4      N/A          N/A
Min2      -1.00      -24.00      0       N/A          N/A
Max2      3.00       -7.00      70      N/A          N/A
Max1      7.00       -3.00      74      N/A          N/A

CWDM X2
Min1      N/A       N/A         0       N/A          N/A
Min2      N/A       N/A         0       N/A          N/A
Max2      N/A       N/A         0       N/A          N/A
Max1      N/A       N/A         0       N/A          N/A

```

<output truncated>

## show inventory

ネットワークングデバイスに取り付けられているすべてのシスコ製品の製品インベントリリストを表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

**show inventory {fru | oid | raw} [entity]**

<b>fru</b>	(任意) シスコのネットワークングデバイスに取り付けられているすべての現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を取得します。
<b>oid</b>	(任意) オブジェクト識別子 (OID) と呼ばれるベンダー固有のハードウェア登録 ID に関する情報を取得します。  OID によって、MIB 階層内における MIB オブジェクトの位置が識別され、複数の管理対象デバイスのネットワーク内にある MIB オブジェクトにアクセスする方法が提供されます。
<b>raw</b>	(任意) シスコのネットワークングデバイスに取り付けられているすべてのシスコ製品 (エンティティ) に関する情報を取得します。製品 ID (PID) 値、固有デバイス識別子 (UDI)、その他の物理 ID がないエンティティもすべて含まれます。
<b>entity</b>	(任意) シスコエンティティ (シャーシ、バックプレーン、モジュール、スロットなど) の名前。引用符で囲まれた文字列を使用すると、より限定的な UDI 情報を表示できます。たとえば、「sfslot 1」と指定すると、sfslot という名前のエンティティのスロット 1 の UDI 情報が表示されます。

### コマンド モード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Everest 16.6.3	このコマンドは、シャーシのシリアル番号を表示するように拡張されました。

### 使用上のガイドライン

**show inventory** コマンドを使用すると、各シスコ製品に関するインベントリ情報が取得され、UDI 形式で表示されます。UDI は、製品 ID (PID)、バージョン ID (VID)、シリアル番号 (SN) という 3 つの別個のデータ要素を結合したものです。

PID は製品を発注するための名前前で、従来は「製品名」または「部品番号」と呼ばれていました。これは、正しい交換部品を発注するために使用される ID です。

VIDは製品のバージョンです。製品が改訂されるたびに、VIDは増加します。VIDは、製品変更の通知を管理する業界のガイドラインである、Telcordia GR-209-CORE から取得された厳格なプロセスに従って増加されます。

SNはベンダー固有の製品の通し番号です。それぞれの製造済み製品には、現場では変更できない固有のシリアル番号が工場で割り当てられます。この番号は、製品の特定のインスタンスを個々に識別するための手段です。

UDIでは各製品をエンティティと呼びます。シャーシなどの一部のエンティティには、スロットのようなサブエンティティがあります。各エンティティは、シスコエンティティごとに階層的に配置された論理的な表示順で別々の行に表示されます。

オプションを指定せずに **show inventory** コマンドを使用すると、ネットワークデバイスに取り付けられており、PIDが割り当てられているシスコエンティティのリストが表示されます。

次に、**show inventory** コマンドの出力例を示します。

```
Device#show inventory
9500-32QC-SVL#show inv
NAME: "Switch 1 Chassis", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Chassis"
PID: C9500-32QC      , VID: V00      , SN: CAT2144L10V

NAME: "Switch 1 Power Supply Module 0", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series 650W AC Power
Supply"
PID: C9K-PWR-650WAC-R  , VID: V00      , SN: ART2148F53T

NAME: "Switch 1 Power Supply Module 1", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series 650W AC Power
Supply"
PID: C9K-PWR-650WAC-R  , VID: V01      , SN: ART2151FC04

NAME: "Switch 1 Fan Tray 0", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY    , VID:          , SN:

NAME: "Switch 1 Fan Tray 1", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY    , VID:          , SN:

NAME: "Switch 1 Slot 1 Supervisor", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Router"
PID: C9500-32QC      , VID: V00      , SN: CAT2144L10V

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/2", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M    , VID: A0      , SN: JPC2144034J-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/4", DESCR: "QSFP 40GE SR4"
PID: QSFP-40G-SR4      , VID: 03      , SN: AVP1824S0YQ

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/5", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D       , SN: FIW211101UL-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/8", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D       , SN: FIW211101N6-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/10", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: A       , SN: DTS2045A271-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/11", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M    , VID: D       , SN: TED2047K013-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/15", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D       , SN: FIS1922011T-B
```

## show inventory

```

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/16-qla", DESCR: "CVR 10GE SFP "
PID: CVR-QSFP-SFP10G      , VID: V01  , SN: DTY204604UN

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/16", DESCR: "10GE CU3M"
PID: SFP-H10GB-CU3M      , VID: R    , SN: TED1739B9HY

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/18", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: D    , SN: TED2047K10U-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/19", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: D    , SN: TED2030K4U6-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/22", DESCR: "QSFP 40GE CU5M"
PID: QSFP-H40G-CU5M      , VID: A0   , SN: JPC203508YN-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/24", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: D    , SN: TED2047K13Y-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/25", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M      , VID: A    , SN: APF20412069-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/28", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: A0   , SN: JPC214402J7-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/30", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: D    , SN: TED2047K13Z-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/32", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: 01   , SN: LCC1922G2E8-A

NAME: "HundredGigE1/0/33", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M      , VID: A    , SN: APF20412159-A

NAME: "HundredGigE1/0/47", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M      , VID: A    , SN: APF21010360-B

NAME: "HundredGigE1/0/48", DESCR: "QSFP 100GE CU1M"
PID: QSFP-100G-CU1M      , VID: A    , SN: APF21450009-A

NAME: "Switch 2 Chassis", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Chassis"
PID: C9500-32QC          , VID: V00  , SN: CAT2144L10L

NAME: "Switch 2 Power Supply Module 0", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series 650W AC Power
Supply"
PID: C9K-PWR-650WAC-R    , VID: V00  , SN: ART2141FAZ4

NAME: "Switch 2 Fan Tray 4", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY      , VID:      , SN:

NAME: "Switch 2 Fan Tray 5", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY      , VID:      , SN:

NAME: "Switch 2 Slot 1 Supervisor", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Router"
PID: C9500-32QC          , VID: V00  , SN: CAT2144L10L

NAME: "SATA disk", DESCR: "disk0 Drive"
PID: C9K-F1-SSD-240G     , VID: V00  , SN: CAT2144L1J0

NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/4", DESCR: "QSFP 40GE SR4"
PID: QSFP-40G-SR4        , VID: 03   , SN: AVP1824S0YS

NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/6", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M      , VID: D    , SN: TED2047K02N-B

```

```
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/7", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: D , SN: TED2047K0ZN-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/8", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: D , SN: TED2030K4U6-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/9", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: A0 , SN: JPC2144034J-B  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/10", DESCR: "QSFP 40GE AOC10M"  
PID: QSFP-H40G-AOC10M , VID: A , SN: DTS2101A050-B  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/11", DESCR: "QSFP 40GE CU5M"  
PID: QSFP-H40G-CU5M , VID: A0 , SN: JPC203508R1-B  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/13", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: D , SN: TED2047K13Y-B  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/14", DESCR: "QSFP 40GE CU2M"  
PID: QSFP-H40G-CU2M , VID: A0 , SN: JPC2039000Z-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/15", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"  
PID: QSFP-H40G-AOC3M , VID: A , SN: DTS2045A271-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/17", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"  
PID: QSFP-H40G-AOC3M , VID: D , SN: FIW211101N6-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/18", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: D , SN: TED2047K013-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/19", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"  
PID: QSFP-H40G-AOC3M , VID: D , SN: FIW211101UL-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/20", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"  
PID: QSFP-H40G-AOC3M , VID: D , SN: FIS1922011T-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/21-qs", DESCR: "CVR 10GE SFP "  
PID: CVR-QSFP-SFP10G , VID: V01 , SN: DTY20460528  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/21", DESCR: "10GE CU3M"  
PID: SFP-H10GB-CU3M , VID: B2 , SN: LRM204581VA  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/28", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: A0 , SN: JPC214402J7-B  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/30", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: D , SN: TED2047K13Z-A  
  
NAME: "FortyGigabitEthernet2/0/32", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"  
PID: QSFP-H40G-CU3M , VID: 01 , SN: LCC1922G2E8-B  
  
NAME: "HundredGigE2/0/33", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"  
PID: QSFP-100G-CU3M , VID: A , SN: APF21010653-B  
  
NAME: "HundredGigE2/0/47", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"  
PID: QSFP-100G-CU3M , VID: A , SN: APF21010360-A  
  
NAME: "HundredGigE2/0/48", DESCR: "QSFP 100GE CU1M"  
PID: QSFP-100G-CU1M , VID: A , SN: APF21450009-B
```

表 4: show inventory のフィールドの説明

フィールド	説明
NAME	シスコ エンティティに割り当てられた物理名 (テキスト ストリング)。たとえば、コンソールまたは「1」などの簡易コンポーネント番号 (ポートまたはモジュールの番号) など、デバイスの物理コンポーネント命名構文に応じて異なります。
DESCR	オブジェクトを特徴付けるシスコエンティティの物理的な説明。物理的な説明には、ハードウェアのシリアル番号やハードウェアのリビジョンが含まれます。
PID	エンティティ製品 ID。RFC 2737 の entPhysicalModelName MIB 変数に相当します。
VID	エンティティのバージョン番号。RFC 2737 の entPhysicalHardwareRev MIB 変数に相当します。
SN	エンティティのシリアル番号。RFC 2737 の entPhysicalSerialNum MIB 変数に相当します。

診断のために、**show inventory** コマンドで **raw** キーワードを使用すると、PID、UDI、その他の物理 ID がないエンティティを含む、すべての RFC 2737 エンティティが表示されます。



(注) **raw** キーワード オプションの主な目的は、**show inventory** コマンド自体の問題をトラブルシューティングすることです。

ネットワーキングデバイスに取り付けられている特定のタイプのシスコエンティティの UDI 情報を表示するには、*entity* 引数値を指定して **show inventory** コマンドを入力します。この例では、**sfslot** という引数文字列に一致するシスコエンティティのリストが表示されます。

```
Device#show inventory "Switch 1 Chassis"
NAME: "Switch 1 Chassis", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Chassis"
PID: C9500-32QC          , VID: V00   , SN: CAT2144L10V

NAME: "Switch 1 Power Supply Module 0", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series 650W AC Power
Supply"
PID: C9K-PWR-650WAC-R   , VID: V00   , SN: ART2148F53T

NAME: "Switch 1 Power Supply Module 1", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series 650W AC Power
Supply"
PID: C9K-PWR-650WAC-R   , VID: V01   , SN: ART2151FC04

NAME: "Switch 1 Fan Tray 0", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY     , VID:       , SN:

NAME: "Switch 1 Fan Tray 1", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Fan Tray"
PID: C9K-T1-FANTRAY     , VID:       , SN:
```

```
NAME: "Switch 1 Slot 1 Supervisor", DESCR: "Cisco Catalyst 9500 Series Router"
PID: C9500-32QC          , VID: V00  , SN: CAT2144L10V

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/2", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: A0  , SN: JPC2144034J-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/4", DESCR: "QSFP 40GE SR4"
PID: QSFP-40G-SR4       , VID: 03  , SN: AVF1824S0YQ

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/5", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D   , SN: FIW211101UL-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/8", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D   , SN: FIW211101N6-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/10", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: A   , SN: DTS2045A271-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/11", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: D   , SN: TED2047K013-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/15", DESCR: "QSFP 40GE AOC3M"
PID: QSFP-H40G-AOC3M    , VID: D   , SN: FIS1922011T-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/16-qs", DESCR: "CVR 10GE SFP "
PID: CVR-QSFP-SFP10G    , VID: V01  , SN: DTY204604UN

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/16", DESCR: "10GE CU3M"
PID: SFP-H10GB-CU3M     , VID: R   , SN: TED1739B9HY

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/18", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: D   , SN: TED2047K10U-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/19", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: D   , SN: TED2030K4U6-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/22", DESCR: "QSFP 40GE CU5M"
PID: QSFP-H40G-CU5M     , VID: A0  , SN: JPC203508YN-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/24", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: D   , SN: TED2047K13Y-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/25", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M     , VID: A   , SN: APF20412069-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/28", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: A0  , SN: JPC214402J7-A

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/30", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: D   , SN: TED2047K13Z-B

NAME: "FortyGigabitEthernet1/0/32", DESCR: "QSFP 40GE CU3M"
PID: QSFP-H40G-CU3M     , VID: 01  , SN: LCC1922G2E8-A

NAME: "HundredGigE1/0/33", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M     , VID: A   , SN: APF20412159-A

NAME: "HundredGigE1/0/47", DESCR: "QSFP 100GE CU3M"
PID: QSFP-100G-CU3M     , VID: A   , SN: APF21010360-B

NAME: "HundredGigE1/0/48", DESCR: "QSFP 100GE CU1M"
PID: QSFP-100G-CU1M     , VID: A   , SN: APF21450009-A
```

引用符で囲まれた *entity* 引数値を使用すると、より限定的な UDI 情報を要求できます。

## show memory platform

プラットフォームのメモリ統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show memory platform** コマンドを使用します。

**show memory platform** [**compressed-swap** | **information** | **page-merging**]

### 構文の説明

<b>compressed-swap</b>	(任意) プラットフォーム メモリの圧縮スワップ情報を表示します。
<b>information</b>	(任意) プラットフォームに関する一般的な情報を表示します。
<b>page-merging</b>	(任意) プラットフォームメモリのページマージング情報を表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

空きメモリは正確に計算されて、コマンド出力の Free Memory フィールドに表示されます。

### 例

次に、**show memory platform** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show memory platform

Virtual memory   : 12874653696
Pages resident  : 627041
Major page faults: 2220
Minor page faults: 2348631

Architecture    : mips64
Memory (kB)
  Physical      : 3976852
  Total         : 3976852
  Used          : 2761276
  Free          : 1215576
  Active        : 2128196
  Inactive      : 1581856
  Inact-dirty   : 0
  Inact-clean   : 0
  Dirty         : 0
  AnonPages     : 1294984
  Bounce        : 0
  Cached        : 1978168
  Commit Limit  : 1988424
  Committed As  : 3343324
  High Total    : 0
  High Free     : 0
  Low Total     : 3976852
```



```
Low Free      : 1215576
Mapped       : 516316
NFS Unstable  : 0
Page Tables  : 17124
Slab         : 0
Vmmalloc Chunk : 1069542588
Vmmalloc Total : 1069547512
Vmmalloc Used : 2588
Writeback    : 0
HugePages Total: 0
HugePages Free : 0
HugePages Rsvd : 0
HugePage Size : 2048

Swap (kB)
Total        : 0
Used         : 0
Free         : 0
Cached       : 0

Buffers (kB) : 437136

Load Average
1-Min       : 1.04
5-Min       : 1.16
15-Min      : 0.94
```

次に、**show memory platform information** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show memory platform information
```

```
Virtual memory : 12870438912
Pages resident : 626833
Major page faults: 2222
Minor page faults: 2362455

Architecture : mips64
Memory (kB)
Physical     : 3976852
Total       : 3976852
Used        : 2761224
Free        : 1215628
Active      : 2128060
Inactive    : 1584444
Inact-dirty : 0
Inact-clean : 0
Dirty       : 284
AnonPages   : 1294656
Bounce      : 0
Cached      : 1979644
Commit Limit : 1988424
Committed As : 3342184
High Total  : 0
High Free   : 0
Low Total   : 3976852
Low Free    : 1215628
Mapped      : 516212
NFS Unstable : 0
Page Tables : 17096
Slab        : 0
Vmmalloc Chunk : 1069542588
Vmmalloc Total : 1069547512
```

```

VMmalloc Used   : 2588
Writeback       : 0
HugePages Total: 0
HugePages Free  : 0
HugePages Rsvd  : 0
HugePage Size   : 2048

Swap (kB)
Total           : 0
Used            : 0
Free            : 0
Cached          : 0

Buffers (kB)    : 438228

Load Average
1-Min           : 1.54
5-Min           : 1.27
15-Min          : 0.99
    
```

## show module

スイッチ番号、モデル番号、シリアル番号、ハードウェアリビジョン番号、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスなどのモジュール情報を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで、このコマンドを使用します。

```
show module [{switch-num }]
```

構文の説明	<i>switch-num</i>	(任意) スイッチの番号。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** *switch-num* 引数を指定せずに **show module** コマンドを入力した場合、**show module all** コマンドを入力した場合と同じ結果になります。

## show mgmt-infra trace messages ilpower

トレースバッファ内のインラインパワーのメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **show mgmt-infra trace messages ilpower** コマンドを使用します。

**show mgmt-infra trace messages ilpower** [switch *stack-member-number*]

構文の説明	<b>switch</b> <i>stack-member-number</i> (任意) トレースバッファ内のインラインパワーのメッセージを表示するスタックメンバ番号を指定します。	
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show mgmt-infra trace messages ilpower** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show mgmt-infra trace messages ilpower
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 1 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 1.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 2 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 2.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 3 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 3.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 4 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 4.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 5 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 5.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 6 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 6.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 7 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 7.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 8 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 8.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC 9 3] Initialized inline power system configuration fo
r slot 9.
[10/23/12 14:05:10.984 UTC a 3] Inline power subsystem initialized.
[10/23/12 14:05:18.908 UTC b 264] Create new power pool for slot 1
[10/23/12 14:05:18.909 UTC c 264] Set total inline power to 450 for slot 1
[10/23/12 14:05:20.273 UTC d 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.288 UTC e 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.299 UTC f 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.311 UTC 10 3] PoE is not supported on .
[10/23/12 14:05:20.373 UTC 11 98] Inline power process post for switch 1
[10/23/12 14:05:20.373 UTC 12 98] PoE post passed on switch 1
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 13 3] Slot #1: PoE initialization for board id 16387
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 14 3] Set total inline power to 450 for slot 1
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 15 3] Gi1/0/1 port config Initialized
[10/23/12 14:05:20.379 UTC 16 3] Interface Gi1/0/1 initialization done.
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 17 3] Gi1/0/24 port config Initialized
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 18 3] Interface Gi1/0/24 initialization done.
[10/23/12 14:05:20.380 UTC 19 3] Slot #1: initialization done.
[10/23/12 14:05:50.440 UTC 1a 3] Slot #1: PoE initialization for board id 16387
[10/23/12 14:05:50.440 UTC 1b 3] Duplicate init event
    
```

## show mgmt-infra trace messages ilpower-ha

トレースバッファ内のインラインパワーのハイアベイラビリティのメッセージを表示するには、特権 EXEC モードで **show mgmt-infra trace messages ilpower-ha** コマンドを使用します。

**show mgmt-infra trace messages ilpower-ha** [*switch stack-member-number*]

構文の説明	<b>switch stack-member-number</b> (任意) トレース バッファ内のインライン パワーのメッセージを表示するスタック メンバ番号を指定します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

次に、**show mgmt-infra trace messages ilpower-ha** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show mgmt-infra trace messages ilpower-ha
[10/23/12 14:04:48.087 UTC 1 3] NG3K_ILPOWER_HA: Created NGWC ILP CF client successfully.
    
```

## show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe

トレースバッファ内のプラットフォームマネージャのPower over Ethernet (PoE) メッセージを表示するには、**show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe** [*switch stack-member-number*]

構文の説明	<b>switch stack-member-number</b> (任意) トレースバッファ内のメッセージを表示するスタックメンバ番号を指定します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

次の例では、**show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe** コマンドの出力の一部を示します。

```

デバイス# show mgmt-infra trace messages platform-mgr-poe
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 1 5495] PoE Info: get power controller param sent:
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 2 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 1 (0:0)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 3 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 2 (0:1)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 4 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 3 (0:2)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 5 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 4 (0:3)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 6 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 5 (0:4)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 7 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 6 (0:5)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 8 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 7 (0:6)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 9 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 8 (0:7)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC a 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 9 (0:8)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC b 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 10 (0:9)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC c 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 11 (0:10)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC d 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 12 (0:11)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC e 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 13 (e:0)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC f 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 14 (e:1)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 10 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 15 (e:2)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 11 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 16 (e:3)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 12 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 17 (e:4)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 13 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 18 (e:5)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 14 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 19 (e:6)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 15 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 20 (e:7)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 16 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 21 (e:8)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 17 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 22 (e:9)
[10/23/12 14:04:06.431 UTC 18 5495] PoE Info: POE_SHUT sent for port 23 (e:10)
    
```

## show network-policy profile

ネットワークポリシープロファイルを表示するには、特権 EXEC モードで **show network policy profile** コマンドを使用します。

**show network-policy profile** [*profile-number*] [*detail*]

### 構文の説明

*profile-number* (任意) ネットワークポリシープロファイル番号を表示します。プロファイルが入力されていない場合、すべてのネットワーク ポリシー プロファイルが表示されます。

**detail** (任意) 詳細なステータスと統計情報を表示します。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show network-policy profile** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show network-policy profile
Network Policy Profile 10
  voice vlan 17 cos 4
  Interface:
    none
Network Policy Profile 30
  voice vlan 30 cos 5
  Interface:
    none
Network Policy Profile 36
  voice vlan 4 cos 3
  Interface:
    Interface_id
    
```

## show platform hardware capacity



- (注) このコマンドは、Cisco Catalyst 9500 シリーズ スイッチの C9500-12Q-E、C9500-12Q-A、C9500-24Q-E、C9500-24Q-A、C9500-40X-E、および C9500-40X-A モデルではサポートされていません。

システムハードウェアの容量を確認するには、特権 EXEC モードで **show platform hardware capacity** コマンドを使用します。

### show platform hardware capacity

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定がありません。

#### コマンド モード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

#### 例

次に、システムハードウェアの容量を決定する例を示します。

```

Device# show platform hardware capacity

Module          Model          Operational Status
-----
subslot 1/0    C9500H-32QC    ok

Load Average
Slot  Status  1-Min  5-Min  15-Min
    
```

```

RP0 Healthy 0.07 0.16 0.13

Memory (kB)
Slot Status Total Used (Pct) Free (Pct) Committed (Pct)
RP0 Healthy 15958108 3060492 (19%) 12897616 (81%) 25941080 (163%)

CPU Utilization
Slot CPU User System Nice Idle IRQ SIRQ IOwait
RP0 0 0.70 0.20 0.00 99.10 0.00 0.00 0.00
    1 0.39 0.09 0.00 99.50 0.00 0.00 0.00
    2 0.80 0.40 0.00 98.80 0.00 0.00 0.00
    3 1.10 0.20 0.00 98.69 0.00 0.00 0.00
    4 0.00 0.00 0.00 100.00 0.00 0.00 0.00
    5 2.20 0.00 0.00 97.80 0.00 0.00 0.00
    6 0.10 3.20 0.00 96.70 0.00 0.00 0.00
    7 0.00 0.00 0.00 100.00 0.00 0.00 0.00
    
```

```

*: interface is up
IHQ: pkts in input hold queue      IQD: pkts dropped from input queue
OHQ: pkts in output hold queue     OQD: pkts dropped from output queue
RXBS: rx rate (bits/sec)           RXPS: rx rate (pkts/sec)
TXBS: tx rate (bits/sec)           TXPS: tx rate (pkts/sec)
TRTL: throttle count
    
```

Interface	TXBS	TXPS	TRTL	IHQ	IQD	OHQ	OQD	RXBS	RXPS
Vlan1				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
* GigabitEthernet0/0				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/1				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/2				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/3				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/4				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/5				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/6				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/7				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/8				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/9				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/10				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/11				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/12				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/13				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/14				0	0	0	0	0	0
0	0		0						
Fo1/0/15				0	0	0	0	0	0
0	0		0						

show platform hardware capacity

Fo1/0/16			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/17			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/18			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/19			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/20			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/21			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/22			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/23			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/24			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/25			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/26			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/27			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/28			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/29			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/30			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
* Fo1/0/31			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
Fo1/0/32			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/33			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/34			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/35			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/36			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/37			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/38			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/39			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/40			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/41			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/42			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/43			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/44			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/45			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/46			0	0	0	0	0	0
0	0	0						
HundredGigE1/0/47			0	0	0	0	0	0
0	0	0						



```

HundredGigE1/0/48          0          0          0          0          0          0
0          0          0
ASIC 0 Info
-----
ASIC 0 HSN Table 0 Software info:      FSE 255
    TILE 0: (null)          srip
    TILE 1: (null)          srip
ASIC 0 HSN Table 1 Software info:      FSE 255
    TILE 0: (null)          srip
    TILE 1: (null)          srip
ASIC 0 HSN Table 2 Software info:      FSE 0
    TILE 0: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3
    TILE 1: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSN Table 3 Software info:      FSE 0
    TILE 0: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3
    TILE 1: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSN Table 4 Software info:      FSE 255
    TILE 0: (null)          srip
    TILE 1: (null)          srip
ASIC 0 HSN Table 5 Software info:      FSE 255
    TILE 0: (null)          srip
    TILE 1: (null)          srip
ASIC 0 HSN Table 6 Software info:      FSE 1
    TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSN Table 7 Software info:      FSE 2
    TILE 0: SGT_DGT          srip 0 1 2 3
    TILE 1: SGT_DGT          srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSF Table 0 Software info:      FSE 1
    TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSF Table 1 Software info:      FSE 1
    TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSF Table 2 Software info:      FSE 1
    TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 0 HSF Table 3 Software info:      FSE 1
    TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
    TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3

```

show platform hardware capacity

```

ASIC 0 HSF Table 4 Software info:      FSE 1
      TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3

OVF Info
-----
Table 0 info:  FSE0: 0, FSE1: 255      #hwmbas: 24, #swmbas: 24
      MAB 0: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3      MAB 1: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 2: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3      MAB 3: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 4: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3      MAB 5: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 6: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3      MAB 7: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 8: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3      MAB 9: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 10: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3     MAB 11: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 12: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 13: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 14: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 15: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 16: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 17: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 18: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 19: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 20: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 21: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
      MAB 22: Unicast MAC addresses srip 0 1 2 3    MAB 23: Unicast MAC addresses
srip 0 1 2 3
Table 1 info:  FSE0: 1, FSE1: 255      #hwmbas: 24, #swmbas: 24
      MAB 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 1: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 3: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 5: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 7: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 8: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 9: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 10: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 11: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 12: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 13: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 14: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 15: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 16: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 17: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 18: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 19: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 20: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 21: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
      MAB 22: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3     MAB 23: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
Table 2 info:  FSE0: 1, FSE1: 255      #hwmbas: 24, #swmbas: 24
      MAB 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3      MAB 1: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3

```

```

MAB 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 3: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 5: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 7: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 8: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 9: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 10: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 11: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 12: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 13: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 14: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 15: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 16: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 17: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 18: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 19: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 20: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 21: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
MAB 22: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3 MAB 23: Directly
or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
Table 3 info: FSE0: 2, FSE1: 255 #hwmbas: 24, #swmbas: 24
MAB 0: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 1: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 2: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 3: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 4: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 5: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 6: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 7: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 8: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 9: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 10: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 11: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 12: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 13: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 14: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 15: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 16: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 17: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 18: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 19: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 20: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 21: SGT_DGT srip 0 1 2 3
MAB 22: SGT_DGT srip 0 1 2 3 MAB 23: SGT_DGT srip 0 1 2 3
TLQ Info
-----
Table 0 info: FSE0: 255, FSE1: 255 #hwmbas: 4, #swmbas: 4
MAB 0: (null) srip MAB 1: (null) srip
MAB 2: (null) srip MAB 3: (null) srip
Table 1 info: FSE0: 255, FSE1: 255 #hwmbas: 4, #swmbas: 4
MAB 0: (null) srip MAB 1: (null) srip
MAB 2: (null) srip MAB 3: (null) srip
TAQ Info
-----
Table 0 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmbas: 4
MAB 0: Input Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2 MAB 1: Input
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
MAB 2: Input Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2 MAB 3: Input
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
Table 1 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmbas: 4
MAB 0: Input Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2 MAB 1: Input
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
MAB 2: Input Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2 MAB 3: Input
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
Table 2 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmbas: 4
MAB 0: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3 MAB 1: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 2: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3 MAB 3: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
Table 3 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmbas: 4
MAB 0: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3 MAB 1: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 2: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3 MAB 3: Output

```



```

MAB 4: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3      MAB 5: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 6: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3      MAB 7: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 8: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3      MAB 9: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 10: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3     MAB 11: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 12: Output Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3     MAB 13: Output
Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 14: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 15:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 16: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 17:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 18: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 19:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 20: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 21:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 22: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 23:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 24: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 25:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 26: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 27:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 28: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 29:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
MAB 30: Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3  MAB 31:
Output Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 1 3
Table 11 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmabs: 4
MAB 0: Input Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2    MAB 1: Input Non
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
MAB 2: Input Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2    MAB 3: Input Non
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
Table 12 (TAQ) info: ASE: 0 #hwmabs: 4
MAB 0: Input Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2    MAB 1: Input Non
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
MAB 2: Input Non Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2    MAB 3: Input Non
Ipv4 Security Access Control Entries srip 0 2
ASIC 1 Info
-----
ASIC 1 HSN Table 0 Software info: FSE 255
TILE 0: (null) srip
TILE 1: (null) srip
ASIC 1 HSN Table 1 Software info: FSE 255
TILE 0: (null) srip
TILE 1: (null) srip
ASIC 1 HSN Table 2 Software info: FSE 2
TILE 0: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3
TILE 1: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSN Table 3 Software info: FSE 2
TILE 0: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3
TILE 1: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSN Table 4 Software info: FSE 255
TILE 0: (null) srip
TILE 1: (null) srip
ASIC 1 HSN Table 5 Software info: FSE 255
TILE 0: (null) srip
TILE 1: (null) srip
ASIC 1 HSN Table 6 Software info: FSE 1
TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSN Table 7 Software info: FSE 1
TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3

```

show platform hardware capacity

```

ASIC 1 HSF Table 0 Software info:      FSE 1
  TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSF Table 1 Software info:      FSE 1
  TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSF Table 2 Software info:      FSE 1
  TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSF Table 3 Software info:      FSE 1
  TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
ASIC 1 HSF Table 4 Software info:      FSE 1
  TILE 0: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 1: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 2: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 3: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 4: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 5: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 6: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
  TILE 7: Directly or indirectly connected routes srip 0 1 2 3
OVF Info
-----
Table 0 info:  FSE0: 2, FSE1: 255      #hwmabs: 24, #swmabs: 24
MAB 0: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 1: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 2: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 3: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 4: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 5: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 6: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 7: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 8: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 9: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 10: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 11: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 12: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 13: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 14: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 15: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3

```

```

MAB 16: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 17: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 18: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 19: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 20: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 21: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
MAB 22: L3 Multicast entries srip 0 1 2 3      MAB 23: L3 Multicast entries
srip 0 1 2 3
Table 1 info:  FSE0: 1, FSE1: 255      #hwmabs: 24, #swmabs: 24
MAB 0: L2 Multicast entries srip 1 3      MAB 1: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 2: L2 Multicast entries srip 1 3      MAB 3: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 4: L2 Multicast entries srip 1 3      MAB 5: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 6: L2 Multicast entries srip 1 3      MAB 7: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 8: L2 Multicast entries srip 1 3      MAB 9: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 10: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 11: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 12: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 13: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 14: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 15: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 16: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 17: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 18: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 19: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 20: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 21: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 22: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 23: L2 Multicast entries srip 1 3
Table 2 info:  FSE0: 1, FSE1: 255      #hwmabs: 24, #swmabs: 24
MAB 0: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 1: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 2: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 3: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 4: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 5: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 6: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 7: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 8: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 9: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 10: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 11: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 12: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 13: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 14: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 15: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 16: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 17: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 18: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 19: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 20: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 21: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 22: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 23: L2 Multicast entries srip 1 3
Table 3 info:  FSE0: 1, FSE1: 255      #hwmabs: 24, #swmabs: 24
MAB 0: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 1: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 2: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 3: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 4: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 5: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 6: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 7: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 8: L2 Multicast entries srip 1 3     MAB 9: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 10: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 11: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 12: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 13: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 14: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 15: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 16: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 17: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 18: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 19: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 20: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 21: L2 Multicast entries srip 1 3
MAB 22: L2 Multicast entries srip 1 3    MAB 23: L2 Multicast entries srip 1 3
TLQ Info
-----
Table 0 info:  FSE0: 255, FSE1: 255      #hwmabs: 4, #swmabs: 4
MAB 0: (null)      srip      MAB 1: (null)      srip
MAB 2: (null)      srip      MAB 3: (null)      srip
Table 1 info:  FSE0: 255, FSE1: 255      #hwmabs: 4, #swmabs: 4
MAB 0: (null)      srip      MAB 1: (null)      srip
MAB 2: (null)      srip      MAB 3: (null)      srip
TAQ Info
-----
Table 0 (TAQ) info:  ASE: 1 #hwmabs: 4
MAB 0: Ingress Netflow ACEs srip 0 2      MAB 1: Ingress Netflow ACEs srip 0 2
MAB 2: Ingress Netflow ACEs srip 0 2      MAB 3: Ingress Netflow ACEs srip 0 2
Table 1 (TAQ) info:  ASE: 0 #hwmabs: 4
MAB 0: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 1: Policy Based Routing ACEs
srip 0 2
MAB 2: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 3: Policy Based Routing ACEs

```

show platform hardware capacity

```

srip 0 2
Table 2 (TAQ) info:      ASE: 0 #hwmabs: 4
MAB 0: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 1: Policy Based Routing ACEs
srip 0 2
MAB 2: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 3: Policy Based Routing ACEs
srip 0 2
Table 3 (TAQ) info:      ASE: 0 #hwmabs: 4
MAB 0: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 1: Policy Based Routing ACEs
srip 0 2
MAB 2: Policy Based Routing ACEs srip 0 2      MAB 3: Policy Based Routing ACEs
srip 0 2
Table 4 (TAQ) info:      ASE: 1 #hwmabs: 4
MAB 0: Egress Netflow ACEs srip 1 3      MAB 1: Egress Netflow ACEs srip 1 3
MAB 2: Egress Netflow ACEs srip 1 3      MAB 3: Egress Netflow ACEs srip 1 3
Table 5 (TAQ) info:      ASE: 2 #hwmabs: 4
MAB 0: Flow SPAN ACEs srip 0 2      MAB 1: Flow SPAN ACEs srip 0 2
MAB 2: Flow Egress SPAN ACEs srip 1 3      MAB 3: Flow Egress SPAN ACEs srip 1 3
Table 6 (TAQ) info:      ASE: 7 #hwmabs: 4
MAB 0: Control Plane Entries srip 1 3      MAB 1: Control Plane Entries srip 1 3
MAB 2: Control Plane Entries srip 1 3      MAB 3: Control Plane Entries srip 1 3
Table 7 (TAQ) info:      ASE: 6 #hwmabs: 4
MAB 0: Tunnels srip 0 2      MAB 1: Tunnels srip 0 2
MAB 2: Tunnels srip 0 2      MAB 3: Tunnels srip 0 2
Table 8 (TAQ) info:      ASE: 6 #hwmabs: 4
MAB 0: Tunnels srip 0 2      MAB 1: Tunnels srip 0 2
MAB 2: Tunnels srip 0 2      MAB 3: Tunnels srip 0 2
Table 9 (TAQ) info:      ASE: 3 #hwmabs: 32
MAB 0: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 1: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 2: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 3: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 4: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 5: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 6: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 7: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 8: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 9: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 10: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 11: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 12: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 13: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 14: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 15: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 16: Input Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 17: Input Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 0 2
MAB 18: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 19: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 20: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 21: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 22: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 23: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 24: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 25: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 26: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 27: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 28: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 29: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
MAB 30: Input Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2      MAB 31: Input
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 0 2
Table 10 (TAQ) info:      ASE: 3 #hwmabs: 32
MAB 0: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3      MAB 1: Output Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 1 3
MAB 2: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3      MAB 3: Output Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 1 3

```



```

MAB 4: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 5: Output Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 1 3
MAB 6: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 7: Output Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 1 3
MAB 8: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 9: Output Ipv4 QoS
Access Control Entries srip 1 3
MAB 10: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 11: Output
Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 12: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 13: Output
Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 14: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 15: Output
Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 16: Output Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 17: Output
Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 18: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 19: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 20: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 21: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 22: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 23: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 24: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 25: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 26: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 27: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 28: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 29: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
MAB 30: Output Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3 MAB 31: Output
Non Ipv4 QoS Access Control Entries srip 1 3
Table 11 (TAQ) info: ASE: 6 #hwmabs: 4
MAB 0: Tunnels srip 0 2 MAB 1: Tunnels srip 0 2
MAB 2: Tunnels srip 0 2 MAB 3: Macsec SPD srip 1 3
Table 12 (TAQ) info: ASE: 5 #hwmabs: 4
MAB 0: Lisp Instance Mapping Entries srip 0 2 MAB 1: Lisp Instance Mapping
Entries srip 0 2
MAB 2: Lisp Instance Mapping Entries srip 0 2 MAB 3: Lisp Instance Mapping
Entries srip 0 2

```

## show platform hardware fed switch forward

デバイス固有のハードウェア情報を表示するには、**show platform hardware fed switch *switch\_number*** コマンドを使用します。

このトピックでは、転送特有のオプション、つまり **show platform hardware fed switch {*switch\_num* | active | standby } forward summary** コマンドで使用可能なオプションのみについて詳しく説明します。

**show platform hardware fed switch *switch\_number* forward summary** の出力には、パケットに対して下された転送決定に関するすべての詳細が表示されます。

**show platform hardware fed switch {*switch\_num* | active | standby} forward summary**

構文の説明	<p><b>switch</b> { <i>switch_num</i>   <b>active</b>   <b>standby</b> }</p> <p>情報を表示するスイッチ。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch_num</b> : スイッチの ID。</li> <li>• <b>active</b> : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>standby</b> : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。</li> </ul>
-------	---

<b>forward summary</b>	<p>パケット転送の情報を表示します。</p> <p>(注) <b>summary</b> キーワードが Cisco IOS XE Everest 16.6.1 以降のリリースでは廃止されています。</p>
------------------------	---

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1 以降のリリース	<b>summary</b> キーワードのサポートが廃止されました。

**使用上のガイドライン** テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。

コマンド出力に表示されるフィールドについて、以下で説明します。

- **Station Index** (ステーションインデックス) : **Station Index** は、レイヤ 2 ルックアップの結果で、以下を表示するステーション記述子にポイントします。
  - **Destination Index** (接続先インデックス) : パケットを送信する出力ポートを決定します。グローバルポート番号 (GPN) は、接続先インデックスとして使用できます。15 から 12 ビットの接続先インデックスのセットは、使用される GPN を示します。たとえば、接続先インデックス 0xF04E は GPN - 78 (0x4e) に対応します。
  - **Rewrite Index** (書き換えインデックス) : パケットで何が実行される必要があるかを決定します。レイヤ 2 スイッチングの場合、通常はブリッジングアクションです。
  - **Flexible Lookup Pipeline Stages** (FPS) (フレキシブルルックアップパイプラインステージ) : パケットのルーティングまたはブリッジングのために下された転送判断を示します。
  - **Replication Bit Map** (複製ビットマップ) : パケットを CPU またはスタックに送信する必要があるかどうかを決定します。
    - ローカル データ コピー = 1

- リモート データ コピー = 0
- ローカル CPU コピー = 0
- リモート CPU コピー = 0

## 例

次に、**show platform hardware fed switch** {*switch\_num* | **active** | **standby** } **forward summary** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス#show platform hardware fed switch 1 forward summary
```

```
Time: Fri Sep 16 08:25:00 PDT 2016
```

```
Incomming Packet Details:
```

```
###[ Ethernet ]###
dst      = 00:51:0f:f2:0e:11
src      = 00:1d:01:85:ba:22
type     = ARP
###[ ARP ]###
hwtype   = 0x1
ptype    = IPv4
hwlen    = 6
plen     = 4
op       = is-at
hwsrc    = 00:1d:01:85:ba:22
psrc     = 10.10.1.33
hwdst    = 00:51:0f:f2:0e:11
pdst     = 10.10.1.1

Ingress:
Switch           : 1
Port             : GigabitEthernet1/0/1
Global Port Number : 1
Local Port Number : 1
Asic Port Number : 21
ASIC Number      : 0
STP state        :
                  blkLrn31to0: 0xffdfdfdf
                  blkFwd31to0: 0xffdfdfdf
Vlan             : 1
Station Descriptor : 170
DestIndex        : 0xF009
DestModIndex     : 2
RewriteIndex     : 2
Forwarding Decision: FPS 2A L2 Destination

Replication Bitmap:
Local CPU copy   : 0
Local Data copy  : 1
Remote CPU copy  : 0
Remote Data copy : 0

Egress:
Switch           : 1
Outgoing Port    : GigabitEthernet1/0/9
Global Port Number : 9
ASIC Number      : 0
Vlan             : 1
```

## show platform resources

プラットフォームのリソース情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform resources** コマンドを使用します。

### show platform resources

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドの出力には、総メモリから正確な空きメモリを引いた値である使用メモリが表示されます。

#### 例

次に、**show platform resources** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show platform resources
**State Acronym: H - Healthy, W - Warning, C - Critical
Resource Usage Max Warning Critical
State
-----
Control Processor 7.20% 100% 90% 95%
H
DRAM 2701MB (69%) 3883MB 90% 95%
H
```

## show platform software ilpower

デバイス上のすべてのPoEポートのインラインパワーの詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software ilpower** コマンドを使用します。

**show platform software ilpower** { details | port { GigabitEthernet interface-number } | system slot-number }

#### 構文の説明

<b>details</b>	すべてのインターフェイスのインラインパワーの詳細を表示します。
<b>port</b>	インラインパワー ポートの設定を表示します。

<b>GigabitEthernet interface-number</b>	GigabitEthernet インターフェイス番号。値の範囲は 0 ~ 9 です。
<b>system slot-number</b>	インライン パワー システムの設定を表示します。

コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

例

次に、**show platform software ilpower details** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show platform software ilpower details
ILP Port Configuration for interface Gil/0/1
  Initialization Done:    Yes
  ILP Supported:         Yes
  ILP Enabled:           Yes
  POST:                  Yes
  Detect On:             No
  Powered Device Detected:      No
  Powered Device Class Done:    No
  Cisco Powered Device:        No
  Power is On:                No
  Power Denied:               No
  Powered Device Type:         Null
  Powerd Device Class:         Null
  Power State:                 NULL
  Current State:               NGWC_ILP_DETECTING_S
  Previous State:              NGWC_ILP_SHUT_OFF_S
  Requested Power in milli watts: 0
  Short Circuit Detected:      0
  Short Circuit Count:         0
  Cisco Powerd Device Detect Count: 0
  Spare Pair mode:            0
  IEEE Detect:                 Stopped
  IEEE Short:                  Stopped
  Link Down:                   Stopped
  Voltage sense:               Stopped
  Spare Pair Architecture:     1
  Signal Pair Power allocation in milli watts: 0
  Spare Pair Power On:         0
  Powered Device power state:  0
  Timer:
    Power Good:                Stopped
    Power Denied:               Stopped
    Cisco Powered Device Detect: Stopped
    
```

## show platform software process list

プラットフォームで実行中のプロセスのリストを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software process list** コマンドを使用します。

```
show platform software process list switch {switch-number | active | standby} {0 | F0 | R0}
[{name process-name | process-id process-ID | sort memory | summary}]
```

### 構文の説明

<b>switch</b> <i>switch-number</i>	スイッチに関する情報を表示します。 <i>switch-number</i> 引数の有効な値は 0～9 です。
<b>active</b>	スイッチのアクティブ インスタンスに関する情報を表示します。
<b>standby</b>	スイッチのスタンバイ インスタンスに関する情報を表示します。
<b>0</b>	共有ポート アダプタ (SPA) インターフェイス プロセッサ スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>F0</b>	Embedded Service Processor (ESP) スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>R0</b>	ルート プロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>name</b> <i>process-name</i>	(任意) 指定されたプロセスに関する情報を表示します。プロセス名を入力します。
<b>process-id</b> <i>process-ID</i>	(任意) 指定されたプロセス ID に関する情報を表示します。プロセス ID を入力します。
<b>sort</b>	(任意) プロセスに従いソートされた情報を表示します。
<b>memory</b>	(任意) メモリに従いソートされた情報を表示します。
<b>summary</b>	(任意) ホスト デバイスのプロセス メモリのサマリーを表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	出力の Size 列が変更され、常駐セットサイズ (RSS) の値 (KB) が表示されるようになりました。
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

### 例

次に、**show platform software process list switch active R0** コマンドの出力例を示します。

Switch# **show platform software process list switch active R0 summary**

```
Total number of processes: 278
Running      : 2
Sleeping     : 276
Disk sleeping : 0
Zombies      : 0
Stopped      : 0
Paging       : 0

Up time      : 8318
Idle time    : 0
User time    : 216809
Kernel time  : 78931

Virtual memory : 12933324800
Pages resident : 634061
Major page faults: 2228
Minor page faults: 3491744

Architecture : mips64
Memory (kB)
  Physical    : 3976852
  Total       : 3976852
  Used        : 2766952
  Free        : 1209900
  Active      : 2141344
  Inactive    : 1589672
  Inact-dirty : 0
  Inact-clean : 0
  Dirty       : 4
  AnonPages   : 1306800
  Bounce      : 0
  Cached      : 1984688
  Commit Limit : 1988424
  Committed As : 3358528
  High Total  : 0
  High Free   : 0
  Low Total   : 3976852
  Low Free    : 1209900
  Mapped      : 520528
  NFS Unstable : 0
  Page Tables : 17328
  Slab        : 0
  VMmalloc Chunk : 1069542588
  VMmalloc Total : 1069547512
  VMmalloc Used : 2588
  Writeback   : 0
  HugePages Total: 0
  HugePages Free : 0
  HugePages Rsvd : 0
  HugePage Size : 2048

Swap (kB)
  Total       : 0
  Used        : 0
  Free        : 0
  Cached      : 0

Buffers (kB) : 439528

Load Average
  1-Min      : 1.13
  5-Min      : 1.18
```

show platform software process list

15-Min : 0.92

次に、**show platform software process list switch active R0** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software process list switch active R0
Name                               Pid    PPid  Group Id  Status  Priority  Size
-----
systemd                            1      0      1  S        20    7892
kthreadd                           2      0      0  S        20     0
ksoftirqd/0                        3      2      0  S        20     0
kworker/0:0H                       5      2      0  S        0     0
rcu_sched                          7      2      0  S        20     0
rcu_bh                              8      2      0  S        20     0
migration/0                        9      2      0  S        4294967196 0
migration/1                       10     2      0  S        4294967196 0
ksoftirqd/1                       11     2      0  S        20     0
kworker/1:0H                      13     2      0  S        0     0
migration/2                       14     2      0  S        4294967196 0
ksoftirqd/2                       15     2      0  S        20     0
kworker/2:0H                      17     2      0  S        0     0
systemd-journal                   221    1      221  S        20   4460
kworker/1:3                       246    2      0  S        20     0
systemd-udevd                     253    1      253  S        20   5648
kvm-irqfd-clean                   617    2      0  S        0     0
scsi_eh_6                         620    2      0  S        20     0
scsi_tmF_6                        621    2      0  S        0     0
usb-storage                       622    2      0  S        20     0
scsi_eh_7                         625    2      0  S        20     0
scsi_tmF_7                        626    2      0  S        0     0
usb-storage                       627    2      0  S        20     0
kworker/7:1                       630    2      0  S        20     0
bioset                             631    2      0  S        0     0
kworker/3:1H                      648    2      0  S        0     0
kworker/0:1H                      667    2      0  S        0     0
kworker/1:1H                      668    2      0  S        0     0
bioset                             669    2      0  S        0     0
kworker/6:2                       698    2      0  S        20     0
kworker/2:2                       699    2      0  S        20     0
kworker/2:1H                      703    2      0  S        0     0
kworker/7:1H                      748    2      0  S        0     0
kworker/5:1H                      749    2      0  S        0     0
kworker/6:1H                      754    2      0  S        0     0
kworker/7:2                       779    2      0  S        20     0
auditd                            838    1      838  S        16   2564
.
.
.
```

次の表で、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。



表 5 : show platform software process list のフィールドの説明

フィールド	説明
Name	プロセスに関連付けられているコマンド名が表示されます。同じプロセスのスレッドでも、スレッドごとにコマンドの値が異なる場合があります。
Pid	プロセスを識別して追跡するためにオペレーティングシステムで使用されるプロセス ID が表示されます。
PPID	親プロセスのプロセス ID が表示されます。
Group Id	グループ ID が表示されます。
Status	人間が判読可能な形式でプロセスのステータスが表示されます。
Priority	無効にされたスケジューリングの優先順位が表示されます。
Size	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 よりも前 : 仮想メモリのサイズが表示されます。 Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 以降 : RAM でそのプロセスに割り当てられているメモリ量を示す常駐セットサイズ (RSS) が表示されます。

## show platform software process slot switch

プラットフォーム ソフトウェア プロセスのスイッチ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software process slot switch** コマンドを使用します。

```
show platform software process slot switch {switch-number | active | standby} {0 | F0 | R0}
monitor [{cycles no-of-times [{interval delay[{lines number}]}]]}]
```

### 構文の説明

<i>switch-number</i>	スイッチ番号。
<b>active</b>	アクティブ インスタンスを指定します。
<b>standby</b>	スタンバイ インスタンスを指定します。

show platform software process slot switch

<b>0</b>	共有ポートアダプタ (SPA) インターフェイスプロセッサスロット0を指定します。
<b>F0</b>	Embedded Service Processor (ESP) スロット0を指定します。
<b>R0</b>	ルートプロセッサ (RP) スロット0を指定します。
<b>monitor</b>	実行中のプロセスをモニタします。
<b><i>cycles no-of-times</i></b>	(任意) <b>monitor</b> コマンドを実行する回数を設定します。有効な値は、1 ~ 4294967295 です。デフォルトは5です。
<b><i>interval delay</i></b>	(任意) それぞれの遅延を設定します。有効値は0 ~ 300です。デフォルトは3です。
<b><i>lines number</i></b>	(任意) 表示される出力の行数を設定します。有効値は0 ~ 512です。デフォルトは0です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**show platform software process slot switch** コマンドと **show processes cpu platform monitor location** コマンドの出力に、Linux **top** コマンドの出力が表示されます。これらのコマンドの出力には、**top** コマンドで表示される「空きメモリ」と「使用メモリ」が表示されます。これらのコマンドによって「空きメモリ」と「使用メモリ」に表示される値は、その他のプラットフォームメモリ関連 CLI の出力で表示される値とは一致しません。

次に、**show platform software process slot switch active R0 monitor** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show platform software process slot switch active R0 monitor

top - 00:01:52 up 1 day, 11:20, 0 users, load average: 0.50, 0.68, 0.83
Tasks: 311 total, 2 running, 309 sleeping, 0 stopped, 0 zombie
Cpu(s): 7.4%us, 3.3%sy, 0.0%ni, 89.2%id, 0.0%wa, 0.0%hi, 0.1%si, 0.0%st
Mem: 3976844k total, 3955036k used, 21808k free, 419312k buffers
Swap: 0k total, 0k used, 0k free, 1946764k cached

  PID USER      PR  NI  VIRT  RES  SHR  S  %CPU  %MEM    TIME+  COMMAND
  5693 root        20   0  3448 1368  912  R   7.0   0.0   0:00.07 top
 17546 root        20   0 2044m 244m  79m  S   6.3  6.3 186:49.08 fed main event
```

```

18662 root      20    0 1806m 678m 263m S    5 17.5 215:32.38 linux_iosd-imag
30276 root      20    0 171m  42m  33m S    5  1.1 125:06.77 repm
17835 root      20    0  935m  74m  63m S    4  1.9  82:28.31 sif_mgr
18534 root      20    0 182m 150m 10m S    2  3.9   8:12.08 smand
   1 root       20    0 8440 4740 2184 S    0  0.1   0:09.52 systemd
   2 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0   0:00.00 kthreadd
   3 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0   0:02.86 ksoftirqd/0
   5 root       0 -20     0   0   0 S    0  0.0   0:00.00 kworker/0:0H
   7 root      RT    0     0   0   0 S    0  0.0   0:01.44 migration/0
   8 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0   0:00.00 rcu_bh
   9 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0   0:23.08 rcu_sched
  10 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0   0:58.04 rcuc/0
  11 root       20    0     0   0   0 S    0  0.0 21:35.60 rcuc/1
  12 root      RT    0     0   0   0 S    0  0.0   0:01.33 migration/1
    
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show processes cpu platform monitor location</code>	IOS XE プロセスの CPU 使用率に関する情報を表示します。

## show platform software status control-processor

プラットフォーム ソフトウェアの制御プロセッサのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで `show platform software status control-processor` コマンドを使用します。

`show platform software status control-processor` [`{brief}`]

構文の説明

**brief** (任意) プラットフォームの制御プロセッサのステータスのサマリーを表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、`show platform memory software status control-processor` コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show platform software status control-processor

2-RP0: online, statistics updated 7 seconds ago
Load Average: healthy
 1-Min: 1.00, status: healthy, under 5.00
 5-Min: 1.21, status: healthy, under 5.00
15-Min: 0.90, status: healthy, under 5.00
Memory (kb): healthy
Total: 3976852
Used: 2766284 (70%), status: healthy
Free: 1210568 (30%)
    
```

## show platform software status control-processor

```

Committed: 3358008 (84%), under 95%
Per-core Statistics
CPU0: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.40, System: 1.70, Nice: 0.00, Idle: 93.80
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.10, IOWait: 0.00
CPU1: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 3.80, System: 1.20, Nice: 0.00, Idle: 94.90
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.10, IOWait: 0.00
CPU2: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 7.00, System: 1.10, Nice: 0.00, Idle: 91.89
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU3: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.49, System: 0.69, Nice: 0.00, Idle: 94.80
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00

3-RP0: unknown, statistics updated 2 seconds ago
Load Average: healthy
  1-Min: 0.24, status: healthy, under 5.00
  5-Min: 0.27, status: healthy, under 5.00
  15-Min: 0.32, status: healthy, under 5.00
Memory (kb): healthy
  Total: 3976852
  Used: 2706768 (68%), status: healthy
  Free: 1270084 (32%)
  Committed: 3299332 (83%), under 95%
Per-core Statistics
CPU0: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.50, System: 1.20, Nice: 0.00, Idle: 94.20
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.10, IOWait: 0.00
CPU1: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 5.20, System: 0.50, Nice: 0.00, Idle: 94.29
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU2: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 3.60, System: 0.70, Nice: 0.00, Idle: 95.69
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU3: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 3.00, System: 0.60, Nice: 0.00, Idle: 96.39
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00

4-RP0: unknown, statistics updated 2 seconds ago
Load Average: healthy
  1-Min: 0.21, status: healthy, under 5.00
  5-Min: 0.24, status: healthy, under 5.00
  15-Min: 0.24, status: healthy, under 5.00
Memory (kb): healthy
  Total: 3976852
  Used: 1452404 (37%), status: healthy
  Free: 2524448 (63%)
  Committed: 1675120 (42%), under 95%
Per-core Statistics
CPU0: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 2.30, System: 0.40, Nice: 0.00, Idle: 97.30
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU1: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.19, System: 0.69, Nice: 0.00, Idle: 95.10
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU2: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.79, System: 0.79, Nice: 0.00, Idle: 94.40
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU3: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 2.10, System: 0.40, Nice: 0.00, Idle: 97.50
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00

9-RP0: unknown, statistics updated 4 seconds ago

```

```

Load Average: healthy
  1-Min: 0.20, status: healthy, under 5.00
  5-Min: 0.35, status: healthy, under 5.00
 15-Min: 0.35, status: healthy, under 5.00
Memory (kb): healthy
  Total: 3976852
  Used: 1451328 (36%), status: healthy
  Free: 2525524 (64%)
  Committed: 1675932 (42%), under 95%
Per-core Statistics
CPU0: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 1.90, System: 0.50, Nice: 0.00, Idle: 97.60
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU1: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 4.39, System: 0.19, Nice: 0.00, Idle: 95.40
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU2: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 5.70, System: 1.00, Nice: 0.00, Idle: 93.30
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.00, IOWait: 0.00
CPU3: CPU Utilization (percentage of time spent)
  User: 1.30, System: 0.60, Nice: 0.00, Idle: 98.00
  IRQ: 0.00, SIRQ: 0.10, IOWait: 0.00
    
```

次に、**show platform memory software status control-processor brief** コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show platform software status control-processor brief

Load Average
  Slot  Status  1-Min  5-Min 15-Min
2-RP0 Healthy  1.10  1.21  0.91
3-RP0 Healthy  0.23  0.27  0.31
4-RP0 Healthy  0.11  0.21  0.22
9-RP0 Healthy  0.10  0.30  0.34

Memory (kB)
  Slot  Status  Total      Used (Pct)      Free (Pct) Committed (Pct)
2-RP0 Healthy  3976852  2766956 (70%)  1209896 (30%)  3358352 (84%)
3-RP0 Healthy  3976852  2706824 (68%)  1270028 (32%)  3299276 (83%)
4-RP0 Healthy  3976852  1451888 (37%)  2524964 (63%)  1675076 (42%)
9-RP0 Healthy  3976852  1451580 (37%)  2525272 (63%)  1675952 (42%)

CPU Utilization
  Slot  CPU  User System  Nice  Idle  IRQ  SIRQ  IOWait
2-RP0  0   4.10  2.00  0.00  93.80  0.00  0.10  0.00
      1   4.60  1.00  0.00  94.30  0.00  0.10  0.00
      2   6.50  1.10  0.00  92.40  0.00  0.00  0.00
      3   5.59  1.19  0.00  93.20  0.00  0.00  0.00
3-RP0  0   2.80  1.20  0.00  95.90  0.00  0.10  0.00
      1   4.49  1.29  0.00  94.20  0.00  0.00  0.00
      2   5.30  1.60  0.00  93.10  0.00  0.00  0.00
      3   5.80  1.20  0.00  93.00  0.00  0.00  0.00
4-RP0  0   1.30  0.80  0.00  97.89  0.00  0.00  0.00
      1   1.30  0.20  0.00  98.50  0.00  0.00  0.00
      2   5.60  0.80  0.00  93.59  0.00  0.00  0.00
      3   5.09  0.19  0.00  94.70  0.00  0.00  0.00
9-RP0  0   3.99  0.69  0.00  95.30  0.00  0.00  0.00
      1   2.60  0.70  0.00  96.70  0.00  0.00  0.00
      2   4.49  0.89  0.00  94.60  0.00  0.00  0.00
      3   2.60  0.20  0.00  97.20  0.00  0.00  0.00
    
```

# show processes cpu platform monitor

IOS XE プロセスの CPU 使用率に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show processes cpu platform monitor** コマンドを使用します。

**show processes cpu platform monitor location switch** {*switch-number* | **active** | **standby**} {**0** | **F0** | **R0**}

構文の説明	<b>location</b>	Field Replaceable Unit (FRU) の場所に関する情報を表示します。
	<b>switch</b>	スイッチを指定します。
	<i>switch-number</i>	スイッチ番号。
	<b>active</b>	アクティブ インスタンスを指定します。
	<b>standby</b>	スタンバイ インスタンスを指定します。
	<b>0</b>	共有ポート アダプタ (SPA) インターフェイス プロセッサ スロット 0 を指定します。
	<b>F0</b>	Embedded Service Processor (ESP) スロット 0 を指定します。
	<b>R0</b>	ルート プロセッサ (RP) スロット 0 を指定します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**show platform software process slot switch** コマンドと **show processes cpu platform monitor location** コマンドの出力に、Linux **top** コマンドの出力が表示されます。これらのコマンドの出力には、**top** コマンドで表示される「空きメモリ」と「使用メモリ」が表示されます。これらのコマンドによって「空きメモリ」と「使用メモリ」に表示される値は、その他のプラットフォーム フォーム メモリ関連 CLI の出力で表示される値とは一致しません。

例  
次に、**show processes cpu monitor location switch active R0** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show processes cpu platform monitor location switch active R0

top - 00:04:21 up 1 day, 11:22,  0 users,  load average: 0.42, 0.60, 0.78
Tasks: 312 total,  4 running, 308 sleeping,  0 stopped,  0 zombie
Cpu(s):  7.4%us,  3.3%sy,  0.0%ni, 89.2%id,  0.0%wa,  0.0%hi,  0.1%si,  0.0%st
Mem:   3976844k total, 3956928k used,  19916k free,  419312k buffers
Swap:      0k total,      0k used,      0k free, 1947036k cached

  PID USER      PR  NI  VIRT  RES  SHR  S  %CPU  %MEM    TIME+  COMMAND

```

```

6294 root      20    0  3448 1368   912 R    9  0.0   0:00.07 top
17546 root      20    0 2044m 244m   79m S    7  6.3 187:02.07 fed main event
30276 root      20    0  171m  42m   33m S    7  1.1 125:15.54 repm
   16 root      20    0    0    0    0 S    5  0.0  22:07.92 rcuc/2
   21 root      20    0    0    0    0 R    5  0.0  22:13.24 rcuc/3
18662 root      20    0 1806m 678m  263m R    5 17.5 215:47.59 linux_iosd-imag
   11 root      20    0    0    0    0 S    4  0.0  21:37.41 rcuc/1
10333 root      20    0  6420 3916 1492 S    4  0.1   4:47.03 btrace_rotate.s
   10 root      20    0    0    0    0 S    2  0.0   0:58.13 rcuc/0
  6304 root      20    0   776   12    0 R    2  0.0   0:00.01 ls
17835 root      20    0  935m  74m   63m S    2  1.9  82:34.07 sif_mgr
    1 root      20    0  8440 4740 2184 S    0  0.1   0:09.52 systemd
    2 root      20    0    0    0    0 S    0  0.0   0:00.00 kthreadd
    3 root      20    0    0    0    0 S    0  0.0   0:02.86 ksoftirqd/0
    5 root      0 -20    0    0    0 S    0  0.0   0:00.00 kworker/0:0H
    7 root      RT    0    0    0    0 S    0  0.0   0:01.44 migration/0
    
```

関連コマンド

コマンド	説明
<b>show platform software process slot switch</b>	プラットフォーム ソフトウェア プロセスのスイッチ情報を表示します。

## show processes memory platform

Cisco IOS XE プロセスごとのメモリ使用率を表示するには、特権 EXEC モードで **show processes memory platform** コマンドを使用します。

```

show processes memory platform [{detailed {name process-name | process-id process-ID}
[location | maps [{location}] | smaps [{location}]}] | location | sorted [{location}]}] switch
{switch-number | active | standby} {0 | F0 | R0}
    
```

構文の説明

<b>detailed</b> <i>process-name</i>	(任意) 指定された Cisco IOS XE プロセスの詳細なメモリ情報を表示します。
<b>name</b> <i>process-name</i>	(任意) Cisco IOS XE プロセス名と一致します。
<b>process-id</b> <i>process-ID</i>	(任意) Cisco IOS XE プロセス ID と一致します。
<b>location</b>	(任意) FRU の場所に関する情報を表示します。
<b>maps</b>	(任意) プロセスのメモリ マップを表示します。
<b>smaps</b>	(任意) プロセスの smap を表示します。

show processes memory platform

<b>sorted</b>	(任意) Cisco IOS XE プロセスによって使用されている合計メモリに基づいてソートされた出力を表示します。
<b>switch</b> <i>switch-number</i>	デバイスに関する情報を表示します。
<b>active</b>	スイッチのアクティブ インスタンスに関する情報を表示します。
<b>standby</b>	スイッチのスタンバイ インスタンスに関する情報を表示します。
<b>0</b>	SPA プロセッサ間スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>F0</b>	Embedded Service Processor (ESP) スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>R0</b>	ルートプロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

例 次に、**show processes memory platform** コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show processes memory platform

System memory: 3976852K total, 2761580K used, 1215272K free,
Lowest: 1215272K
  Pid  Text      Data  Stack  Dynamic  RSS    Total  Name
-----
    1  1246    4400   132    1308    4400   8328   systemd
   96   233    2796   132     132    2796   12436  systemd-journal
  105   284    1796   132     176    1796   5208   systemd-udevd
  707   52     2660   132     172    2660   11688  in.telnetd
  744   968    3264   132    1700    3264   5800   brelay.sh
  835   52     2660   132     172    2660   11688  in.telnetd
  863   968    3264   132    1700    3264   5800   brelay.sh
  928   968    3996   132    2312    3996   6412   reflector.sh
  933   968    3976   132    2312    3976   6412   droputil.sh
  934   968    2140   132     528    2140   4628   oom.sh
  936   173    936    132     132    936    3068   xinetd
  945   968    1472   132     132    1472   4168   libvirtd.sh
  947   592   43164   132   3096    43164  154716  repm
  954   45     932    132     132    932    3132   rpcbind
  986   482    3476   132     132    3476   169288  libvirtd
  988   66     940    132     132    940    2724   rpc.statd
  993   968     928    132     132    928    4232   boothelper_evt.
 1017   21     640    132     132    640    2500   inotifywait
 1089  102    1200   132     132    1200   3328   rpc.mountd
```



```

1328      9      2940    132      148      2940    13844      rotee
1353     39      532     132      132      532     2336      sleep
!
!
!

```

次に、**show processes memory platform information** コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show processes memory platform location switch active R0

System memory: 3976852K total, 2762844K used, 1214008K free,
Lowest: 1214008K
  Pid  Text      Data  Stack  Dynamic      RSS  Total      Name
-----
    1  1246     4400   132    1308     4400   8328      systemd
   96   233     2796   132     132     2796  12436  systemd-journal
  105   284     1796   132     176     1796   5208  systemd-udev
  707    52     2660   132     172     2660  11688  in.telnetd
  744   968     3264   132    1700     3264   5800  brelay.sh
  835    52     2660   132     172     2660  11688  in.telnetd
  863   968     3264   132    1700     3264   5800  brelay.sh
  928   968     3996   132    2312     3996   6412  reflector.sh
  933   968     3976   132    2312     3976   6412  droputil.sh
!
!
!

```

次に、**show processes memory platform sorted** コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show processes memory platform sorted

System memory: 3976852K total, 2762884K used, 1213968K free,
Lowest: 1213968K
  Pid  Text      Data  Stack  Dynamic      RSS  Total      Name
-----
 9655  3787     264964  136    18004    264964  2675968  wcm
17261   324     248588  132    103908    248588  2093076  fed main event
 7885 149848     684864  136      80     684864  1853548  linux_iosd-imag
17891   398     75772  136    1888     75772   958240  sif_mgr
17067  1087     77912  136    1796     77912   702184  platform_mgr
 4268   391    102084  136    5596    102084  482656  cli_agent
 4856   357     93388  132    3680     93388   340052  dbm
29842  8722     64428  132    8056     64428   297068  fman_fp_image
 5960   9509     76088  136    3200     76088   287156  fman_rp
!
!
!

```

次に、**show processes memory platform sorted location switch active R0** コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show processes memory platform sorted location switch active R0

System memory: 3976852K total, 2763584K used, 1213268K free,
Lowest: 1213268K
  Pid  Text      Data  Stack  Dynamic      RSS  Total      Name
-----
 9655  3787     264968  136    18004    264968  2675968  wcm
17261   324     249020  132    103908    249020  2093076  fed main event
 7885 149848     684912  136      80     684912  1853548  linux_iosd-imag

```

```

17891      398      75884      136      1888      75884      958240      sif_mgr
17067     1087      77820      136      1796      77820      702184      platform_mgr
      4268      391     102084      136      5596     102084      482656      cli_agent
      4856      357      93388      132      3680      93388      340052      dbm
29842     8722      64428      132      8056      64428      297068      fman_fp_image
      5960      9509      76088      136      3200      76088      287156      fman_rp
!
!
!
```

## show system mtu

グローバル最大伝送ユニット (MTU) 、またはスイッチに設定されている最大パケットサイズを表示するには、特権 EXEC モードで **show system mtu** コマンドを使用します。

### show system mtu

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

特権 EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

MTU 値および MTU 値に影響を与えるスタック設定の詳細については、**system mtu** コマンドを参照してください。

#### 例

次に、**show system mtu** コマンドの出力例を示します。

## show tech-support

システム情報を表示する **show** コマンドを自動的に実行するには、特権 EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

### show tech-support

[**cef** | **cft** | **eigrp** | **evc** | **fnf** | **ipc** | **ipmulticast** | **ipsec** | **mfib** | **nat** | **nbar** | **onep** | **ospf** | **page** | **password** | **rsvp** | **subscriber** | **vrrp** | **wccp**]

#### 構文の説明

**cef** (任意) CEF 関連情報を表示します。

**cft** (任意) CFT 関連情報を表示します。

<b>eigrp</b>	(任意) EIGRP 関連情報を表示します。
<b>evc</b>	(任意) EVC 関連情報を表示します。
<b>fnf</b>	(任意) Flexible NetFlow 関連情報を表示します。
<b>ipc</b>	(任意) IPC 関連情報を表示します。
<b>ipmulticast</b>	(任意) IP 関連情報を表示します。
<b>ipsec</b>	(任意) IPSEC 関連情報を表示します。
<b>mfib</b>	(任意) MFIB 関連情報を表示します。
<b>nat</b>	(任意) NAT 関連情報を表示します。
<b>nbar</b>	(任意) NBAR 関連情報を表示します。
<b>onep</b>	(任意) ONEP 関連情報を表示します。
<b>ospf</b>	(任意) OSPF 関連情報を表示します。
<b>page</b>	(任意) コマンド出力を 1 ページずつ表示します。Return キーを押して、出力の次の行を表示するか、スペースバーを使用して、次の情報ページを表示します。使用しない場合、出力がスクロールします (つまり、改ページで停止しません)。コマンド出力を停止するには、 <b>Ctrl+C</b> キーを押します。
<b>password</b>	(任意) パスワードおよびその他のセキュリティ情報を出力に残します。使用しない場合、出力中のパスワードおよびその他のセキュリティ関連情報は、ラベル「<removed>」と置き換えられます。
<b>rsvp</b>	(任意) IP RSVP 関連情報を表示します。
<b>subscriber</b>	(任意) サブスクライバ関連情報を表示します。
<b>rrrp</b>	(任意) VRRP 関連情報を表示します。
<b>wccp</b>	(任意) WCCP 関連情報を表示します。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが拡張され、 <b>show logging onboard uptime</b> コマンドの出力が表示されるようになりました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが以下に実装されました。 Cisco Catalyst 9500 シリーズスイッチ

使用上のガイドライン

**show tech-support** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support >filename**）。ファイルに出力をリダイレクトすると、出力を Cisco Technical Assistance Center (TAC) の担当者に送信することも容易になります。

リダイレクトには、次のいずれかの方法を使用できます。

- **>filename** : 出力をファイルにリダイレクトします。
- **>>filename** : 出力をファイルにアペンドモードでリダイレクトします。

# speed

10/100/1000/2500/5000 Mbps ポートの速度を指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **speed** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
speed {10 | 100 | 1000 | 2500 | 5000 | auto [{10 | 100 | 1000 | 2500 | 5000}]} | nonegotiate}
no speed
```

構文の説明

<b>10</b>	ポートが 10 Mbps で稼働することを指定します。
<b>100</b>	ポートが 100 Mbps で稼働することを指定します。
<b>1000</b>	ポートが 1000Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、10/100/1000 Mb/s ポートでだけ有効になって表示されます。
<b>2500</b>	ポートが 2500 Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、マルチギガビット対応のイーサネット ポートでのみ有効であり、表示されます。
<b>5000</b>	ポートが 5000 Mbps で稼働することを指定します。このオプションは、マルチギガビット対応のイーサネット ポートでのみ有効であり、表示されます。
<b>auto</b>	稼働時のポートの速度を、リンクのもう一方の終端のポートを基準にして自動的に検出します。 <b>auto</b> キーワードと一緒に <b>10</b> 、 <b>100</b> 、 <b>1000</b> 、 <b>1000</b> 、 <b>2500</b> 、または <b>5000</b> キーワードを使用した場合、ポートは指定の速度でのみ自動ネゴシエートします。
<b>nonegotiate</b>	自動ネゴシエーションをディセーブルにし、ポートは 1000 Mbps で稼働します。

コマンド デフォルト デフォルトは **auto** です。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 10 ギガビットイーサネット ポートでは速度を設定できません。

1000BASE-T Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールを除き、SFP モジュールポートが自動ネゴシエーションをサポートしていないデバイスに接続されている場合は、ネゴシエートしないように (**nonegotiate**) 速度を設定できます。

新しいキーワードの **2500** および **5000** は、マルチギガビット (m-Gig) イーサネット対応デバイスでのみ表示されます。

速度が **auto** に設定されている場合、スイッチはもう一方のリンクの終端にあるデバイスと速度設定についてネゴシエートし、速度をネゴシエートされた値に強制的に設定します。デュプレックス設定はリンクの両端での設定が引き継がれますが、これにより、デュプレックス設定に矛盾が生じることがあります。

ラインの両端が自動ネゴシエーションをサポートしている場合、デフォルトの自動ネゴシエーション設定を使用することを強く推奨します。一方のインターフェイスでは自動ネゴシエーションをサポートし、もう一方の終端ではサポートしていない場合、サポートしている側には **auto** 設定を使用し、サポートしていない終端にはデュプレックスおよび速度を設定します。



**注意** インターフェイス速度とデュプレックスモードの設定を変更すると、再設定中にインターフェイスがシャットダウンし、再びイネーブルになる場合があります。

スイッチの速度およびデュプレックスのパラメータの設定に関する注意事項は、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーションガイドの「Configuring Interface Characteristics」の章を参照してください。

設定を確認するには、**show interfaces** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**例**

次に、ポートの速度を 100 Mbps に設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# speed 100
```

次に、10 Mbps でだけポートが自動ネゴシエートするように設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# speed auto 10
```

次に、10 Mbps または 100 Mbps でだけポートが自動ネゴシエートするように設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet1/0/1
デバイス(config-if)# speed auto 10 100
```

## switchport block

不明なマルチキャストまたはユニキャストパケットが転送されないようにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport block** コマンドを使用します。不明なマルチキャストまたはユニキャストパケットの転送を許可するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport block {multicast|unicast}
no switchport block {multicast|unicast}
```

### 構文の説明

**multicast** 不明のマルチキャスト トラフィックがブロックされるように指定します。

(注) 純粋なレイヤ 2 マルチキャスト トラフィックだけがブロックされます。ヘッダーに IPv4 または IPv6 の情報を含むマルチキャストパケットはブロックされません。

**unicast** 不明のユニキャスト トラフィックがブロックされるように指定します。

### コマンド デフォルト

不明なマルチキャストおよびユニキャスト トラフィックはブロックされていません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

デフォルトでは、不明な MAC アドレスを持つすべてのトラフィックがすべてのポートに送信されます。保護ポートまたは非保護ポート上の不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックをブロックすることができます。不明なマルチキャストまたはユニキャストトラフィックが保護ポートでブロックされない場合、セキュリティに問題のある場合があります。

マルチキャスト トラフィックでは、ポートブロッキング機能は純粋なレイヤ 2 パケットだけをブロックします。ヘッダーに IPv4 または IPv6 の情報を含むマルチキャストパケットはブロックされません。

不明なマルチキャストまたはユニキャスト トラフィックのブロックは、保護ポート上で自動的にイネーブルにはなりません。明示的に設定する必要があります。

パケットのブロックに関する情報は、このリリースに対応するソフトウェアコンフィギュレーションガイドを参照してください。

次の例では、インターフェイス上で不明なユニキャストトラフィックをブロックする方法を示します。

```
デバイス(config-if)# switchport block unicast
```

設定を確認するには、**show interfaces interface-id switchport** 特権 EXEC コマンドを入力します。

## system mtu

構文の説明	<i>bytes</i>				
コマンドデフォルト	すべてのポートのデフォルトの MTU サイズは 1500 バイトです。				
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** 設定を確認するには、**show system mtu** 特権 EXEC コマンドを入力します。スイッチはインターフェイス単位では MTU をサポートしていません。特定のインターフェイスタイプで許容範囲外の値を入力した場合、その値は受け入れられません。

## voice-signalingvlan (ネットワークポリシーコンフィギュレーション)

音声シグナリングアプリケーションタイプのネットワークポリシープロファイルを作成するには、ネットワークポリシーコンフィギュレーションモードで **voice-signaling vlan** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice-signaling vlan {vlan-id [{cos cos-value | dscp dscp-value}] | dot1p [{cos l2-priority | dscp dscp}] | none | untagged}
```

構文の説明	<i>vlan-id</i> (任意) 音声トラフィック用の VLAN。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
-------	---

<b>cos</b> <i>cos-value</i>	(任意) 設定された VLAN に対する レイヤ 2 プライオリティ Class of Service (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 5 です。
<b>dscp</b> <i>dscp-value</i>	(任意) 設定された VLAN に対する Diffserv コードポイント (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 46 です。
<b>dot1p</b>	(任意) IEEE 802.1p プライオリティ タギング および VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。
<b>none</b>	(任意) 音声 VLAN に関して Cisco IP Phone に指示しません。電話は電話のキーパッドから入力された設定を使用します。
<b>untagged</b>	(任意) タグなしの音声トラフィックを送信するように電話を設定します。これが電話のデフォルトになります。

**コマンド デフォルト** 音声シグナリング アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。  
 デフォルトの CoS 値は、5 です。  
 デフォルトの DSCP 値は、46 です。  
 デフォルトのタギング モードは、untagged です。

**コマンド モード** ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

voice-signaling アプリケーション タイプは、音声メディアと異なる音声シグナリング用のポリシーを必要とするネットワーク トポロジ用です。すべての同じネットワーク ポリシーが voice policy TLV にアドバタイズされたポリシーとして適用される場合、このアプリケーションタイプはアドバタイズしないでください。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コードポイント (DSCP) の値、およびタギング モードを指定することで、音声シグナリング用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の network-policy Time Length Value (TLV) に含まれます。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。



次の例では、プライオリティ 2 の CoS を持つ VLAN 200 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# network-policy profile 1
デバイス(config-network-policy)# voice-signaling vlan 200 cos 2
```

次の例では、DSCP 値 45 を持つ VLAN 400 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# network-policy profile 1
デバイス(config-network-policy)# voice-signaling vlan 400 dscp 45
```

次の例では、プライオリティタギングを持つネイティブ VLAN 用の音声シグナリングを設定する方法を示します。

```
デバイス(config-network-policy)# voice-signaling vlan dot1p cos 4
```

## voicevlan (ネットワークポリシーコンフィギュレーション)

音声アプリケーションタイプのネットワークポリシー プロファイルを作成するには、ネットワークポリシー コンフィギュレーションモードで **voice vlan** コマンドを使用します。ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voice vlan {vlan-id [{cos cos-value | dscp dscp-value}] | dot1p [{cos l2-priority | dscp dscp}] | none | untagged}
```

### 構文の説明

<b>vlan-id</b>	(任意) 音声トラフィック用の VLAN。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
<b>cos cos-value</b>	(任意) 設定された VLAN に対するレイヤ 2 プライオリティ Class of Service (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 5 です。
<b>dscp dscp-value</b>	(任意) 設定された VLAN に対する Diffserv コードポイント (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 46 です。
<b>dot1p</b>	(任意) IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。
<b>none</b>	(任意) 音声 VLAN に関して Cisco IP Phone に指示しません。電話は電話のキーパッドから入力された設定を使用します。
<b>untagged</b>	(任意) タグなしの音声トラフィックを送信するように電話を設定します。これが電話のデフォルトになります。

**コマンド デフォルト** 音声アプリケーション タイプのネットワークポリシー プロファイルは定義されていません。  
 デフォルトの CoS 値は、5 です。  
 デフォルトの DSCP 値は、46 です。  
 デフォルトのタグging モードは、**untagged** です。

**コマンド モード** ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** プロファイルを作成し、ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**network-policy profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

voice アプリケーション タイプは IP Phone 専用であり、対話形式の音声サービスをサポートするデバイスに似ています。通常、これらのデバイスは、展開を容易に行えるようにし、データアプリケーションから隔離してセキュリティを強化するために、別個の VLAN に配置されません。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードの場合、VLAN、Class of Service (CoS)、Diffserv コードポイント (DSCP) の値、およびタグging モードを指定することで、音声用のプロファイルを作成することができます。

これらのプロファイルの属性は、Link Layer Discovery Protocol for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) の network-policy Time Length Value (TLV) に含まれます。

ネットワークポリシー プロファイル コンフィギュレーション モードから特権 EXEC モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。

次の例では、プライオリティ 4 の CoS を持つ VLAN 100 用の音声アプリケーション タイプを設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# network-policy profile 1
デバイス(config-network-policy)# voice vlan 100 cos 4
```

次の例では、DSCP 値 34 を持つ VLAN 100 用の音声アプリケーション タイプを設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# network-policy profile 1
デバイス(config-network-policy)# voice vlan 100 dscp 34
```

次の例では、プライオリティ タグging を持つネイティブ VLAN 用の音声アプリケーション タイプを設定する方法を示します。

```
デバイス(config-network-policy)# voice vlan dot1p cos 4
```